

第4章

地域づくりの方針 (地域別構想)

1. 地域区分の設定について
2. 地域別構想

第4章 地域づくりの方針（地域別構想）

本章では、「都市づくりの方針（全体構想）」を受けて、住民の生活圏に近い地域単位ごとに、より詳細かつ地域の特色を活かした地域づくりの方針（地域別構想）を定めます。

1. 地域区分の設定について

（1）地域別構想の地域区分について

地域区分の設定にあたっては、地形等の自然的条件、土地利用の状況、日常生活の交流範囲等を考慮し、各地域の将来像を描き施策を位置付ける上で、適切なまとまりのある空間の範囲とする必要があります。

岩国市都市計画マスタープランでは、本市の中心市街地を含み、にぎわいや観光・交流の中核を担う「岩国地域」、瀬戸内海沿岸部の集落地や、海を活かした交流・レクリエーションエリアを有する「由宇地域」、内陸部のゆとりある田園居住環境と、交通利便性を活かした内陸型産業の要である「周東・玖珂地域」の3つの地域に区分します。

■ 地域別構想の対象範囲



■ 地域区分

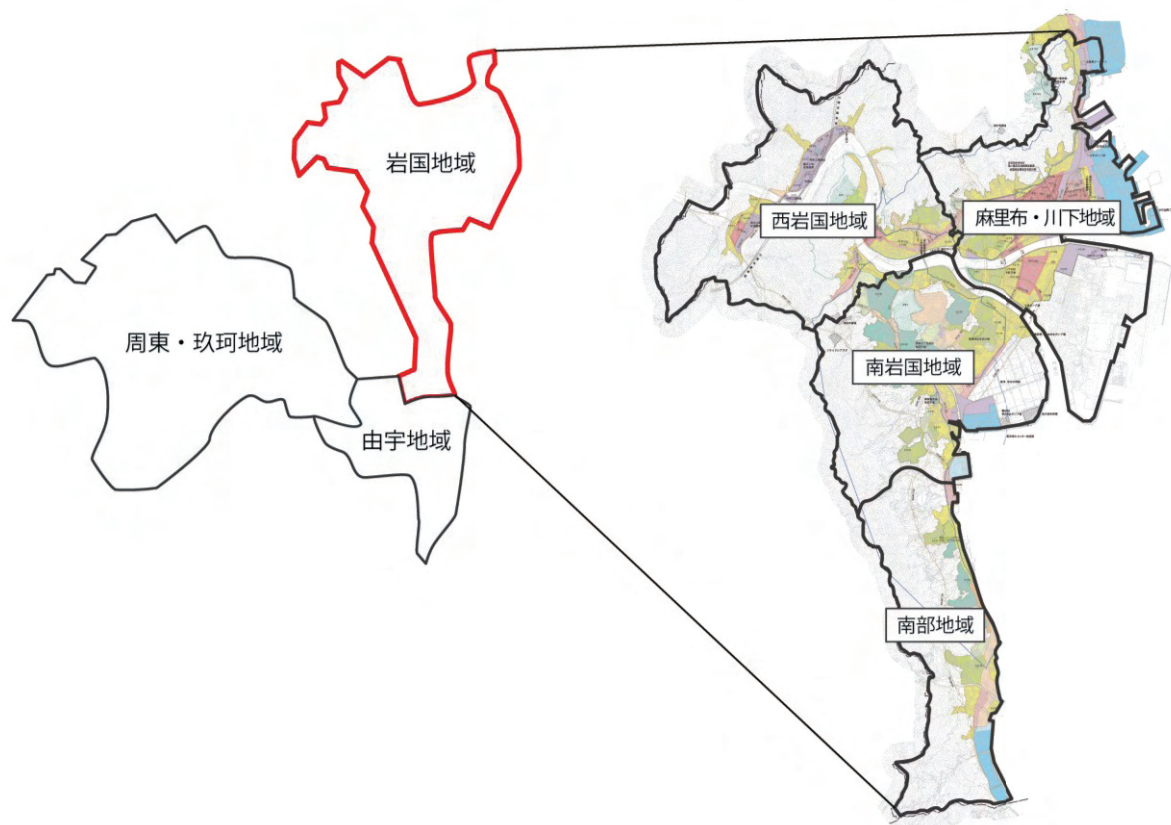


（２）岩国地域の地域区分について

岩国地域には、多様な特性をもつ市街地が各地域に形成されています。

そこで、地形的な特徴や地域特性及び日常生活圏等を考慮し、本地域をさらに、岩国駅を中心とした中心市街地を有する「麻里布・川下地域」、錦帯橋周辺等の歴史的なまちなみを有する「西岩国地域」、南岩国駅を中心に良好な住宅地が広がる「南岩国地域」、瀬戸内海に面する自然豊かな「南部地域」の４つの地域に区分し、より市民に分かりやすい地域づくりの方針を示します。

■ 岩国地域・地域区分



2. 地域別構想

各地域の現状、市民・高校生アンケートや地域別ワークショップの結果等を踏まえて、地域毎に「将来像」と「地域づくりの目標」を掲げるとともに、これを実現するための地域づくりの方針を定めます。

(1) 麻里布・川下地域



◆ 麻里布・川下地域の将来像

**陸・空の充実した交通機能が、多様な都市機能の集積と
にぎわい・交流を創出する魅力あふれるまち**

◆ 麻里布・川下地域の地域づくりの目標

● 本市内外のつながりや本市の発展の起点となる岩国都市拠点の形成

岩国駅や岩国錦帯橋空港を起点とした公共交通機能の強化や、周辺地域からのアクセス向上、臨海部を中心とした産業活動の円滑化に向けた道路環境の整備・改善を図り、本市内外から多くの人が集まるにぎわいと活力ある魅力的な中心市街地を形成し、市全域に波及効果を生み出します。

● 快適なまちなか居住と産業活動を促進する基盤施設の整備

本市の中心を担う都市拠点としての高次都市機能の集積を進め、まちなかで楽しく過ごせるにぎわいの創出と中心市街地における回遊性の向上を図ることで、快適に暮らし続けられる住環境の形成を図ります。

● 身近な水と緑からなる自然環境の保全・活用

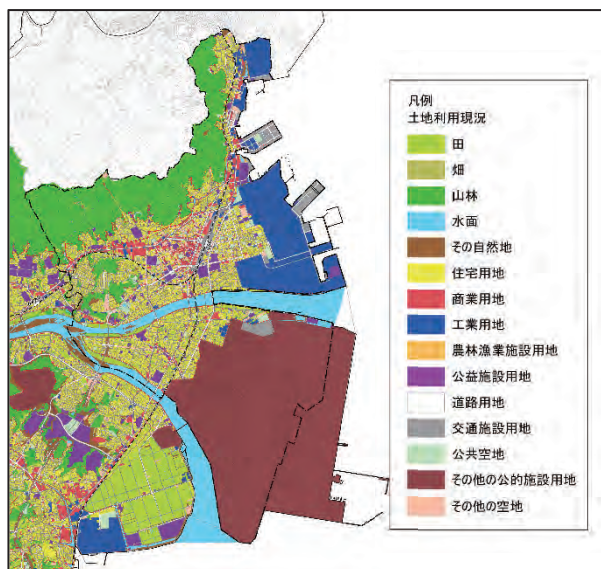
市街地内を流れる錦川は、市街地に潤いをもたらす水と緑からなる貴重な自然環境です。河川環境の保全を図るとともに、河川敷等の桜並木や楠等の緑を活かし、快適で魅力ある河川空間の形成を図ります。また、これらの自然は時には大きな災害をもたらすこともあることから、日常的に災害への備えを進めます。

◆ 麻里布・川下地域の状況

① 麻里布・川下地域の特徴

- ・岩国駅周辺に、市役所などの公共公益施設や事業所などが立地し、本市の中心的役割を担っています。
- ・沿岸部には工場が集積するとともに、国の重要港湾に位置付けられている岩国港を有し、瀬戸内海の臨海工場地帯の一翼を担っています。
- ・今津川と門前川に挟まれた三角州には、在日米海兵隊岩国航空基地を有し、海上自衛隊も一部共同使用しています。また、岩国錦帯橋空港は、軍民共用空港として使用されています。

■ 土地利用現況

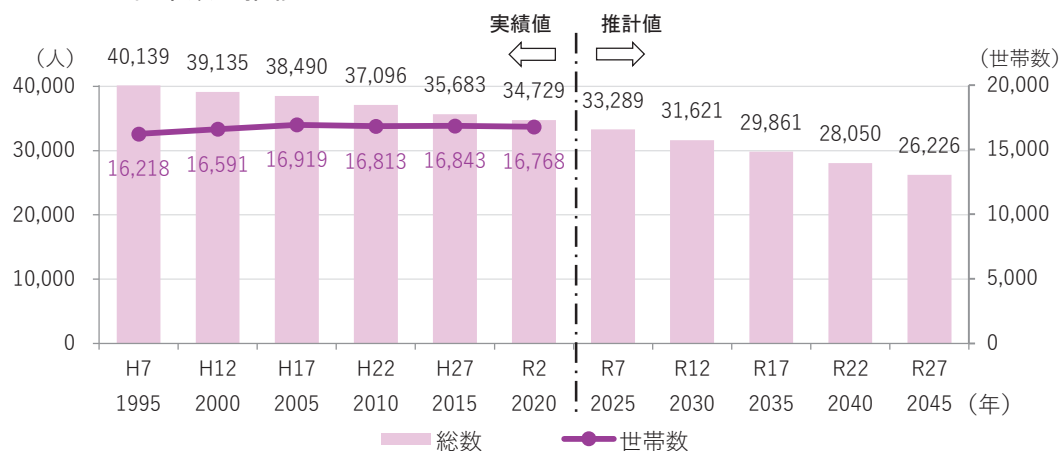


出典：2022（令和4）年度都市計画基礎調査

②人口・世帯数

- ・人口は減少傾向にあり、2045（令和27）年の人口は、2020（令和2）年と比較して約24%減少すると推計されています。
- ・世帯数は2005（平成17）年まで増加傾向でしたが、それ以降は減少傾向にあります。
- ・人口密度は岩国駅周辺で密度が高く、2020（令和2）年では地域全体的に40人/ha以上のエリアが広がっています。2045（令和27）年には、岩国駅周辺の一部で80人/haが維持されるエリアがあるものの、地域全体では低下が見込まれ、麻里布町などでは40人/haを下回ると推計されています。

■ 人口・世帯数の推移

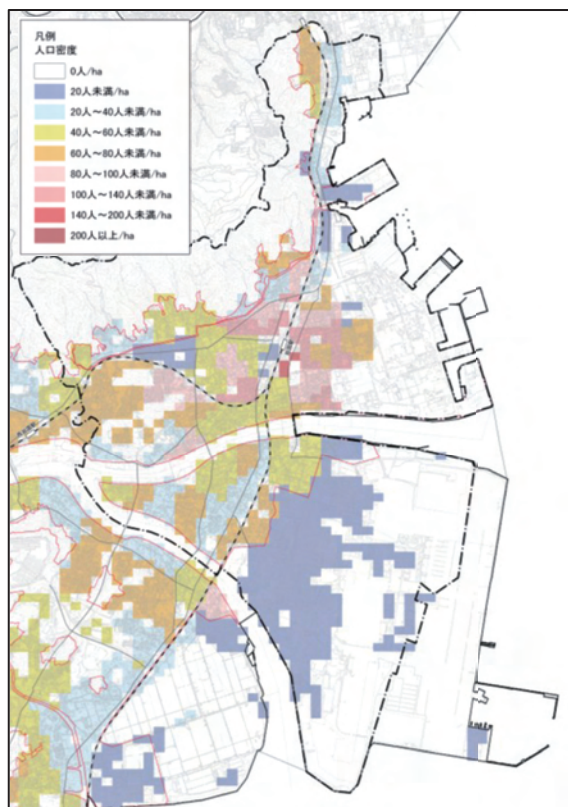


※実績値：総人口は年齢不詳を含んでいる。

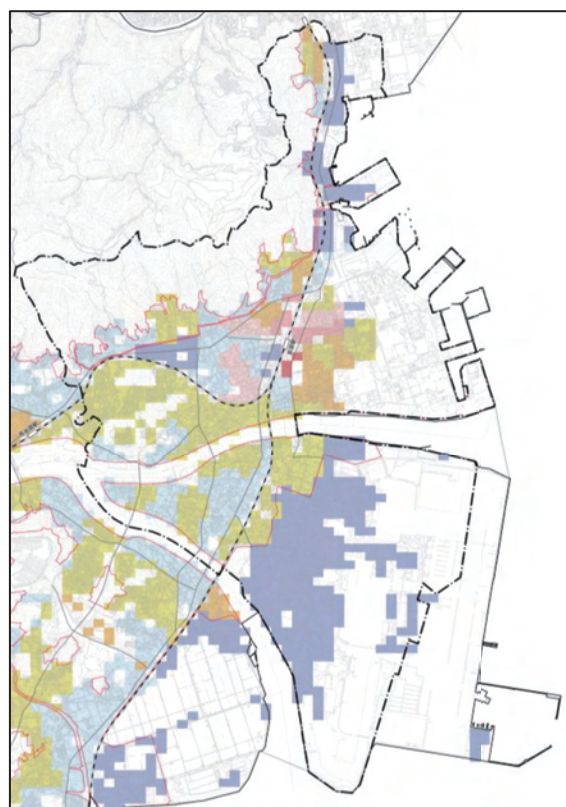
推計値：2020（令和2）年国勢調査を基にした推計値。

出典：国勢調査、社人研「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」

■ 2020（令和2）年人口密度



■ 2045（令和27）年人口密度

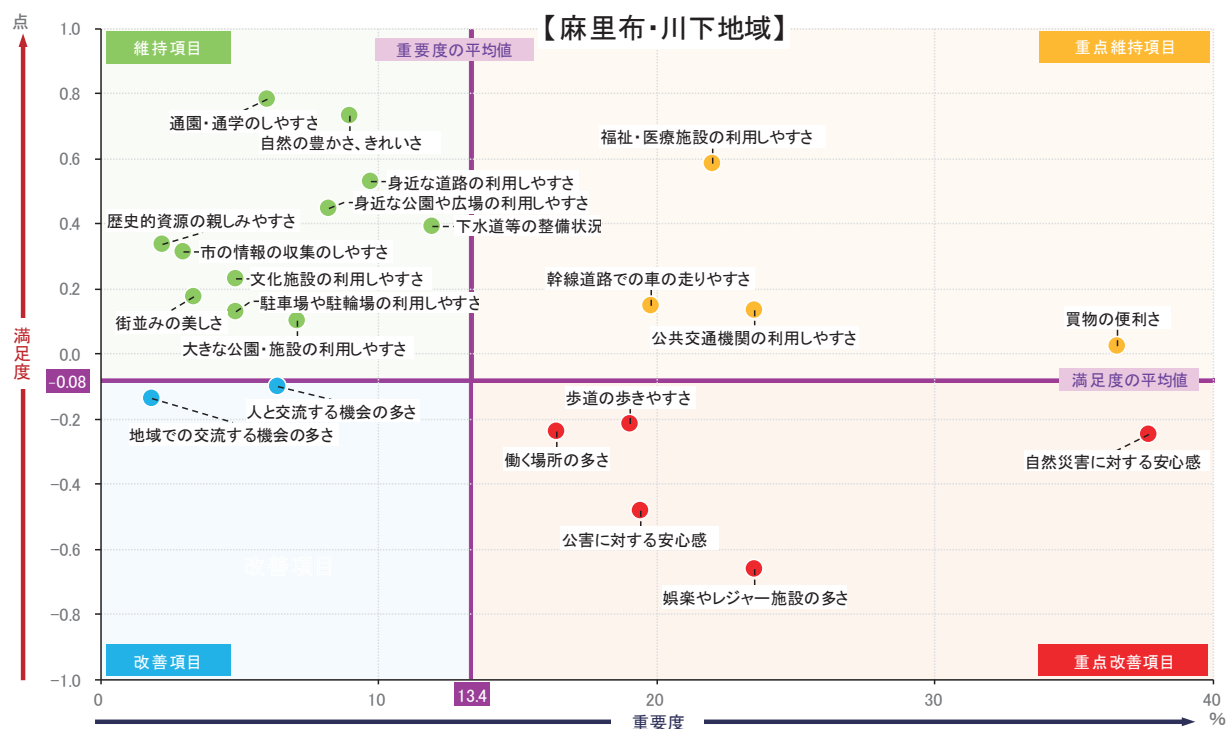


出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」、国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」

※国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」を用いた計算結果を加工して作成

③アンケート結果（満足度・重要度）

■ 市民アンケート 満足度・重要度



満足度・重要度の算出方法

- ・満足度：「満足」＋2点、「やや満足」＋1点、「やや不満」－1点、「不満」－2点、「わからない」0点で点数化し、その平均点を算出
- ・重要度：各項目の回答数を居住地域の居住地域の回答数で割って割合を算出

【満足度・重要度からみた維持や改善すべき項目】

- ・「福祉・医療施設の利用しやすさ」は、満足度・重要度ともに高く、一定の水準が確保されているため、今後も現状の維持が望めます。
- ・「通園・通学のしやすさ」は、満足度が高く、重要度は平均値を下回っており、大きな課題はありません。今後も現状の維持が望めます。
- ・「買い物の便利さ」「公共交通機関の利用しやすさ」は、満足度が平均値付近にある一方で重要度は高く、十分とはいえないため、今後の動向を踏まえた改善が望めます。
- ・「自然災害に対する安心感」は、満足度が低い一方で重要度は最も高く、重点的な改善が望めます。
- ・「娯楽・レジャー施設の多さ」は、満足度が最も低い一方で重要度は高く、本市の中心を担う地域として、重点的な改善が望めます。

④地域別ワークショップでの意見

- ・若者が集まるための「にぎわいの場」や「働く場」と、高齢者が暮らしやすい「医療・買い物など日常生活の利便性」を求める意見が多くありました。
- ・拠点整備では、駅前周辺の交通機能の利便性向上（駐車場整備、歩行者空間整備）や、にぎわい創出（商業施設、飲食施設、保育施設等の整備）を希望する意見が多くありました。
- ・岩国錦帯橋空港を活用した企業誘致や企業連携、観光客の集客を希望する意見や、JR山陽本線との接続性向上などを望む意見が多くありました。
- ・道路整備では、交通網の充実を希望する声が多く、また、歩行者や自転車の人にも使いやすい道路を望む意見もありました。
- ・防災では洪水被害に対する意見が多く、一時避難場所の充実や霞堤の整備等の意見がありました。
- ・インターネット環境の充実やSNSの効果的な活用などの意見がありました。

◆ 地域づくりの方針

①土地利用・市街地整備

- 岩国駅周辺は、本市の中心となる都市拠点にふさわしく、高次都市機能の集積による利便性の向上を図るとともに、観光等で訪れる人の玄関口としてにぎわいと魅力の向上を図り、多様な世代が集う魅力ある空間を創出します。また、本市の中心としての利便性を活かし、中高層住宅の立地誘導による都心居住を促進します。
- 岩国駅前で進められている、岩国駅前南地区市街地再開発組合による岩国駅前南地区第一種市街地再開発事業の推進を図り、商業・業務・行政機能を中心とした高次都市機能の集積及び複合化を実現します。
- 岩国駅を中心とする中心市街地は、『第3期岩国市中心市街地活性化基本計画』に掲げる事業の推進により、まちなかの魅力の向上と恒常的なにぎわいの創出を図り、中心市街地の活性化を実現します。
- 今津地区や川下地区の幹線道路沿い、並びに麻里布地区から室の木地区等の国道2号沿いを中心とする都市機能誘導区域は、日常生活を支える身近な商業・業務施設等を適切に配置・誘導するとともに、周辺の住宅地と調和した良好な市街地環境の形成を図ります。
- 川下地区は、『川下地区まちづくり整備計画』に基づき、幹線道路や生活道路、公園、公共下水道等の都市基盤施設の整備を推進することにより、落ち着いた暮らしやすい市街地環境の形成を図ります。
- 『岩国市立地適正化計画』で定めたにぎわい居住区域（居住誘導区域）については、生活道路や公園等の日常的な生活基盤施設の整備・改善を進めるとともに、安心して快適に暮らし続けることができる住環境の保全・形成を図ります。
- 統合によって休校となった小学校用地については、住民の意向を踏まえながら、土地利用を検討します。
- 瀬戸内海沿いに広がる臨海部の工業地域は、広域的なアクセスの優位性を活かして多様な企業活動の集積を促進し、本市の産業を支える工業拠点の形成を図ります。
- 岩国港周辺は、隣接する工業地域と連携した流通業務機能の強化を図るため、港湾施設や道路等の整備を促進します。
- 岩国駅東・川下地区等の工場と住宅が混在する地区については、地域と協働しながら、共生可能な市街地環境の形成に努めます。

②道路・交通環境

- 麻里布・川下地域と周辺地域を結ぶ岩国大竹道路の整備を促進し、円滑な交通環境の形成を目指すとともに、国道2号及び国道188号の慢性的な渋滞の解消に向け、道路の改良・整備を進めます。
- 南岩国地域とのアクセス向上に向け、都市計画道路（以下「（都）」と表記）昭和町藤生線の整備を推進するとともに、川下地区においては、地区の東西を結ぶ幹線道路である（都）楠中津線の整備を推進します。
- 都市計画道路については、機能の必要性や事業性を踏まえ、計画的に整備を進めていきます。
- 生活道路のバリアフリー化等を進め、歩行者や自転車が安心して通行できる道路環境の改善を図ります。
- 家屋が密集する地区においては、せまいみち改善事業や狭あい道路整備事業（川下地区）を活用し、生活道路の拡幅による居住環境の改善や地域の防災機能の強化を図ります。
- 岩国駅を起点として市内外の各地域を結ぶバス路線の維持や、通勤・通学に適したダイヤの設定、乗り場案内や行き先表示の充実等により、公共交通の利便性の向上を図ります。
- 岩国錦帯橋空港の利便性向上に向け、主要な幹線道路から空港ターミナルへのアクセス性の向上及び岩国駅や錦帯橋バスセンターとの公共交通（バス）の充実を図ります。
- 岩国港は、ターミナル機能の強化を図るとともに、臨海部のスムーズな物流輸送等を推進するための岩国港臨港道路等の整備や、大型船の寄港誘致に資する取組を促進します。
- 岩国港から黒島・端島・柱島間を結ぶ離島航路は、島民にとって唯一の公共交通機関であり、通勤や通院、生活必需品の運搬などの生活交通だけでなく、観光振興などの地域活性化の観点からも重要な役割を担っていることから、今後も維持していきます。



飛鳥Ⅲの寄港

③自然環境・都市環境

- 岩国駅を中心とする市街地は、駅前広場と現在進められている市街地再開発事業等の駅周辺事業との連携を図り、本市の玄関口にふさわしいまちの顔となるシンボリックな都市景観を形成します。また、地域内の緑化や街路樹の適正な配置及び維持管理による、潤いのある景観形成を進めます。
- 中央公園は、錦川の水辺と楠巨樹群を活かした親水性の高い空間を整備し、市民の憩いと癒しの場となる公園づくりを目指します。
- 長山公園は、水と緑の潤い豊かな地域に親しまれる公園としての活用を図ります。
- 街区公園等の地域に身近な公園や緑地は、住民のニーズを踏まえながら再編・再生、適切な維持管理、活用方策について検討し、地域と協働した取組を進めます。
- 港湾緑地は、多くの市民に利用される公園・緑地として整備、有効活用を図ります。
- 錦川の自然環境の保全を図るとともに、河川敷等は、防災面に配慮しながら散策路等の親水空間を確保し、川の自然と調和した潤いある景観形成を図ります。
- 市街地周辺の山地・丘陵地は、市街地の背景として都市の風致や潤いに資する貴重な緑であり、市民や企業等と連携しながら適切に保全を図るとともに、豊かな樹林地の活用を図ります。
- 河川等の自然環境への負荷を軽減させるとともに、衛生的で快適な生活環境を整えるため、公共下水道等の整備を推進します。また、公共下水道事業区域外については、合併処理浄化槽の普及に向けた取組を推進し、汚水処理人口普及率の向上に努めます。



長山公園

④都市防災

- 今津川・門前川沿い、瀬戸内海沿いの麻里布、川下、今津地区等は、洪水浸水や高潮浸水、津波浸水が想定されていることから、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、洪水被害や浸水被害を抑止・軽減するため、護岸整備や河

川のしゅんせつ、ポンプ場の整備等による自然災害対策の強化に努めます。

- 河川氾濫を抑止・軽減するため、錦川水系流域治水プロジェクトに基づき、山口県と連携を図りながら、海岸保全施設の老朽化対策等の促進や下水道施設の整備を推進します。
- 市街地の縁辺部の丘陵地や土砂流出等のおそれがある地区等は、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、被害防止のための対策の推進、開発の抑制等による自然災害対策の強化に努めます。

⑤その他

- 基地のあるまちという特性を活かし、「岩国市英語交流センターPLAT ABC」を拠点として、気軽に英語の学び・学び直しや国際交流等ができる魅力的なまちづくりを推進し、地域の活性化を図ります。
- サンライズクリーンセンターの適正な管理とともに、循環型社会に関する市民の意識啓発を推進します。

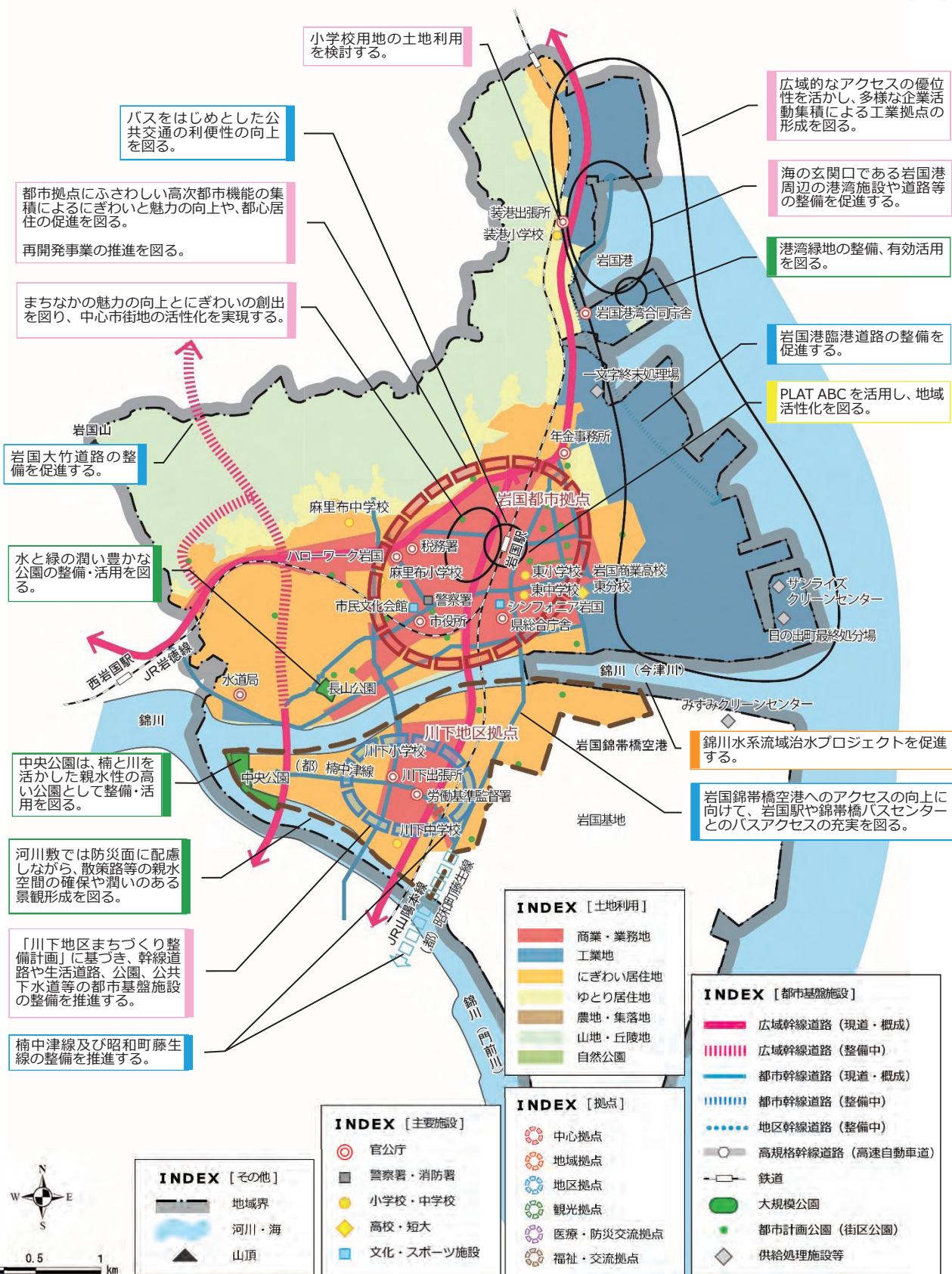


「岩国市英語交流センターPLAT ABC」

麻里布・川下地域の方針図

〔地域づくりの方針〕

土地利用・市街地整備 道路・交通環境 自然環境・都市環境 都市防災 その他



(2) 西岩国地域



◆ 西岩国地域の将来像

**先人から受け継がれた歴史・文化・自然を未来につなぎ、
観光交流を創出するまち**

◆ 西岩国地域の地域づくりの目標

● 歴史と自然が調和した魅力ある城下町の保全・整備

清流錦川にかかる日本三名橋である錦帯橋を中心とした城下町地区は、自然や人々の営みとともに育まれた歴史・文化が調和した魅力ある景観を有しており、国から重要文化的景観に選定されています。この美しく魅力ある城下町の景観を次世代へ継承するために、適切な保全・整備を行います。

● 国内外から多くの人を訪れる観光拠点の形成

城下町地区では、錦帯橋を中心とする錦川の両岸において、歴史・文化・自然からなる多様な資源が多く分布しています。本市の観光拠点として、国内外から多くの人を訪れ、安全に楽しく回遊できる市街地環境の整備を進めます。

● 広域交通のアクセスを活かした交流の促進

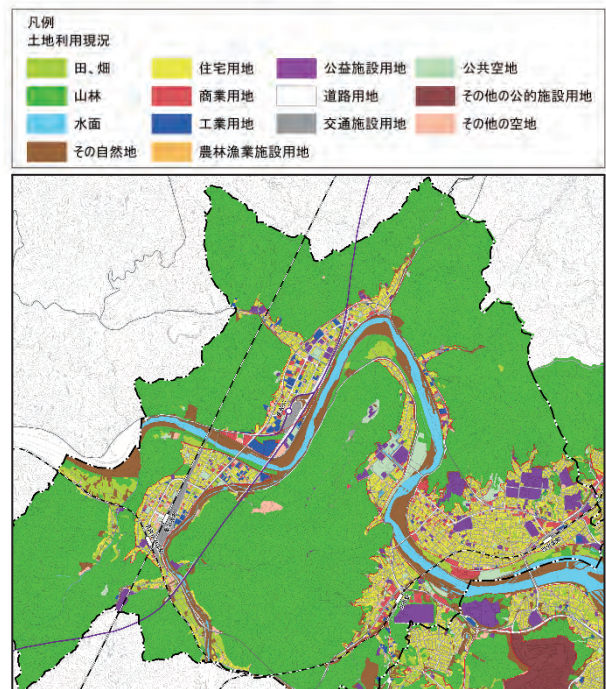
本地域は、JR 山陽新幹線新岩国駅と山陽自動車道岩国インターチェンジを有しており、広域的な交通利便の高い地域です。また、都市計画区域外の地域と岩国駅を中心とする都市拠点との結節点の役割を担います。この交通特性を活かして、市内の各拠点や観光拠点へのアクセス性を向上し、市内外との広域交流の促進を図ります。

◆ 西岩国地域の状況

① 西岩国地域の特徴

- ・ 錦川に沿った城下町地区は、多くの人が訪れる観光地として、錦帯橋をはじめ、歴史・文化・自然等の多様な資源が集積しており、国から重要文化的景観に選定されています。
- ・ J R 山陽新幹線新岩国駅と山陽自動車道岩国インターチェンジを有しており、市外と本市を結ぶ広域交通の玄関口となっています。
- ・ 御庄・多田地区の一部での工業用地や錦見地区での公益施設用地の分布も見られますが、地域の大半は住宅地となっています。

■ 土地利用現況

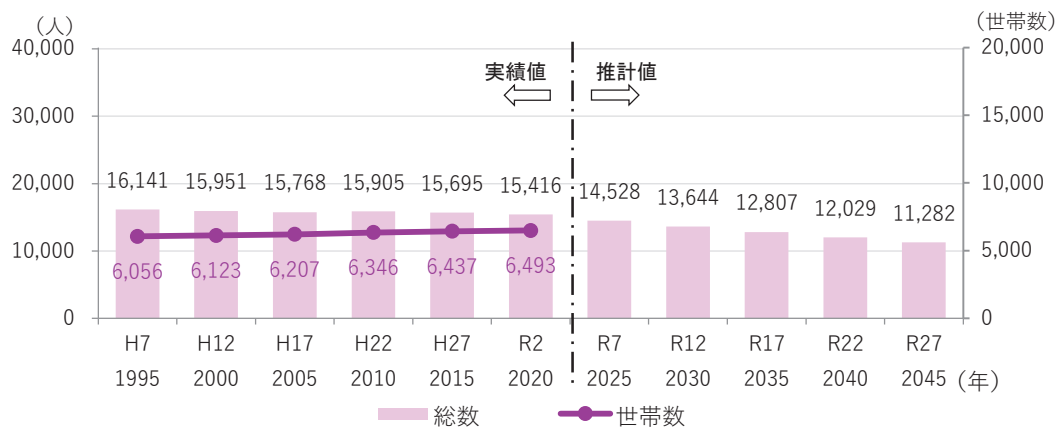


出典：2022（令和4）年度都市計画基礎調査

②人口・世帯数

- ・ 人口は減少傾向にあり、2045（令和27）年の推計人口は2020（令和2）年人口より約27%減少すると推計されています。
- ・ 世帯数は増加傾向にありますが、今後の人口減少に伴い減少すると推計されています。
- ・ 人口密度は、2020（令和2）年の時点では、西岩国駅周辺の錦見地区で60人/ha以上となっており、地域内の住宅地を中心に40人/haを上回っていますが、2045（令和27）年では地域全体で人口密度の低下がみられ、用途地域内でも40人/haを下回るエリアが拡大すると推計されています。

■ 人口・世帯数の推移



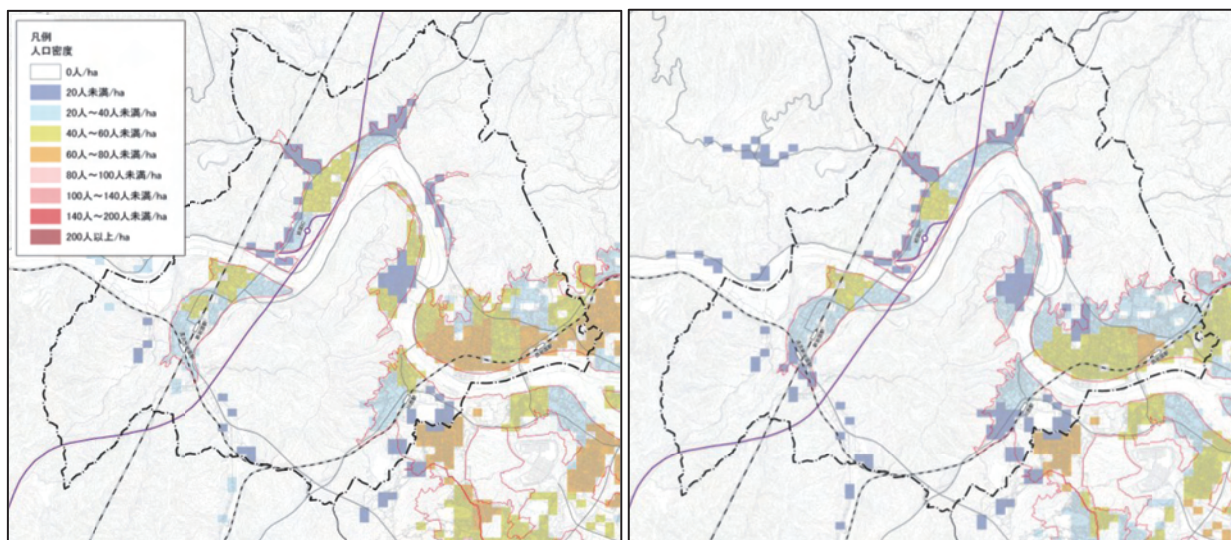
※実績値：総人口は年齢不詳を含んでいる。

推計値：2020（令和2）年国勢調査を基にした推計値。

出典：国勢調査、社人研「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」

2020（令和2）年人口密度

2045（令和27）年人口密度

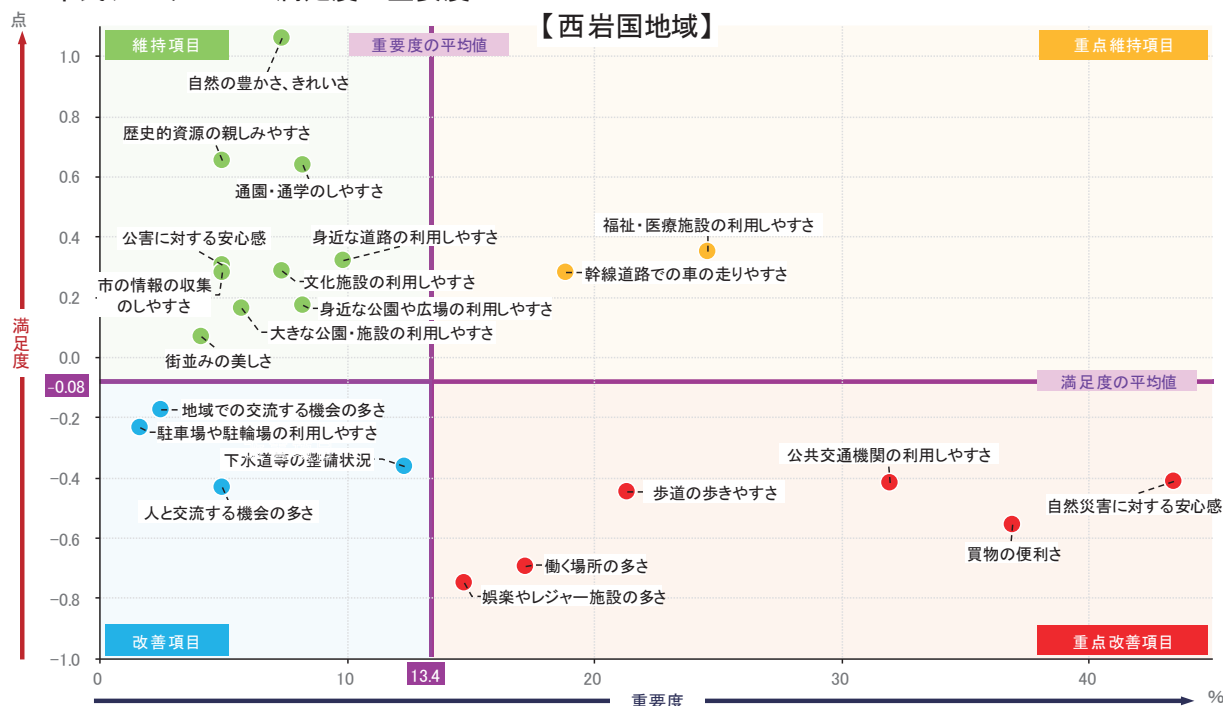


出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」
国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」

※国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」を用いた計算結果を加工して作成

③アンケート結果（満足度・重要度）

市民アンケート 満足度・重要度



満足度・重要度の算出方法

- ・満足度：「満足」＋2点、「やや満足」＋1点、「やや不満」－1点、「不満」－2点、「わからない」0点で点数化し、その平均点を算出
- ・重要度：各項目の回答数を居住地域の居住地域の回答数で割って割合を算出

【満足度・重要度からみた維持や改善すべき項目】

- ・「自然の豊かさ、きれいさ」「歴史的資源の親しみやすさ」は、満足度が高く、現在の水準が評価されています。いずれも重要度は平均値を下回っているものの、地域の特性や観光資源としての価値を踏まえ、今後も現状の維持が望まれます。
- ・「福祉・医療施設の利用しやすさ」「幹線道路での車の走りやすさ」は、満足度・重要度ともに平均値を上回っており、一定の水準が確保されているため、今後も現状の維持が望まれます。
- ・「人と交流する機会の多さ」「駐車場や駐輪場の利用しやすさ」は、満足度・重要度ともに平均値を下回っており、優先度は相対的に低いものの、今後の動向を踏まえた対応が望まれます。
- ・「働く場所の多さ」「娯楽・レジャー施設の多さ」は、満足度が特に低く、重要度が平均値を上回っているため、課題が見られるものの、他の重点改善項目と比較すると優先度が低い状況です。
- ・「自然災害に対する安心感」「買い物の便利さ」は、満足度が低い一方で、重要度が特に高く、重点的な改善が望まれます。

④地域別ワークショップでの意見

- ・若者が集まるための「にぎわいの場」や「働く場」と、高齢者が暮らしやすい「徒歩圏内の医療・買い物など日常生活の利便性」を求める意見が多くありました。
- ・公共交通では、新岩国駅から岩国駅へのアクセス性の向上のほか、高齢者の移動手段となる自家用車以外の移動手段の充実が望まれており、駅のバリアフリー化やバス・タクシーの利便性向上に関する意見がありました。
- ・観光・レジャーでは、錦帯橋・城下町周辺の観光機能（飲食、駐車場など交通インフラ）の拡充や、錦川や山林など自然環境を活かした飲食店、レクリエーションの創出を望む意見がありました。一方で、観光地区と生活地区との区分を望む意見もありました。
- ・防災では洪水被害に対する意見が多く、特に御庄川の洪水対策を求める意見が多くありました。

◆ 地域づくりの方針

①土地利用・市街地整備

- 城下町地区は地区住民の日常生活を支える地区拠点であり、また歴史・文化的な資源と錦川や城山からなる美しい自然環境が調和した観光拠点でもあることから、既存の住環境に配慮しながら身近な商業・業務施設や交流機能を適正に配置・誘導することで、住宅と商業・業務施設が共存したにぎわいの創出を図ります。
- 城下町地区は、『岩国市景観計画』をはじめとする各種制度の活用により、歴史的なまちなみの保全を図るとともに、既存施設の建替えや新たに建築・開発等を行なう際には、地域の風情ある景観や美しい自然環境と調和した土地利用の誘導を図ります。
- 西岩国駅や新岩国駅周辺は、既存の住環境に配慮しながら、日常生活を支える身近な商業・業務施設を適正に配置・誘導することにより、生活利便の向上を図ります。
- 国道2号等の主要な幹線道路沿いの都市機能誘導区域は、周辺地域の日常生活を支える身近な商業・業務施設等を適正に配置・誘導するとともに、周辺の観光地や住宅地と調和した良好な市街地環境の形成を図ります。
- 山陽自動車道岩国インターチェンジ周辺では、広域交通の利便を活かした工業・流通業務拠点の形成を図ります。
- 多田・藤河・御庄地区の工場と住宅が混在する地区では、地域と協働しながら、共生できる市街地環境の改善に努めます。
- 錦見地区は、長期未着手となっている土地区画整理事業にとらわれない、新たなまちづくりについて検討を行います。
- 『岩国市立地適正化計画』で定めたにぎわい居住区域（居住誘導区域）については、生活道路や公園等の日常的な生活基盤施設の整備・改善を図るとともに、安心して快適に暮らし続けることができる住環境の保全・形成を図ります。
- 錦川や御庄川沿いの田園地域では、無秩序な市街化を抑制し、優良な農地の保全による営農環境を適切に維持するとともに、既存集落の居住環境の改善等による集落の活力維持を図ります。



城下町地区の歴史的なまちなみ

②道路・交通環境

- 西岩国地域と麻里布・川下地域及び南岩国地域とのアクセス向上に向け、国道2号等の幹線道路の改良・整備を進め、円滑な交通環境の形成を目指します。
- 都市計画道路については、機能の必要性や事業性を踏まえて都市計画変更を行っており、整備の優先度を踏まえて順次整備を進めていきます。
- 生活道路のバリアフリー化等を進め、歩行者や自転車が安心して通行できる道路環境の改善を図ります。
- 家屋が密集する地区においては、せまいみち改善事業等を活用し、生活道路の拡幅による居住環境の改善や地域の防災機能の強化を図ります。
- 城下町地区は、住民や観光客が安心して快適に通行できるよう無電柱化や美装化により、交通環境の整備に努め、地区全体の駐車場のあり方など交通環境の改善に取り組みます。
- 新岩国駅は、駅前広場の改修により、バリアフリー化を行うなど、安全・安心な移動空間を創出するとともに、岩国駅や城下町地区とのアクセス性の向上を図ります。
- 西岩国駅は、歴史的な建造物である駅舎を活かしつつ、錦見地区のまちづくりと連携を図りながら交流機能の強化を図ります。
- 新岩国駅、錦帯橋バスセンター、岩国インターバスターミナルなど、市内外の各地域を結ぶバス路線の維持・確保や、通勤・通学に適したダイヤ設定、乗り場案内や行き先表示の充実等、公共交通の利便性の向上を図ります。



新岩国駅駅前広場の完成イメージ図



いわくに交流テラス Miraido

③自然環境・都市環境

- 吉香公園や城山をはじめ、錦帯橋や錦川周辺に広がる緑は、良好な都市の風致を形成するものであり、適切に保全を図るとともに、隣接する市街地内では、背景となる自然環境や歴史的景観と調和した建築・開発行為の誘導を進めます。
- 城下町地区の重要文化的景観を継承するために、重要な構成要素に特定された物件を適切に保存するとともに、生活や生業の継承支援を行うなど重要文化的景観の保存と活用に取り組みます。
- 街区公園等の地域に身近な公園や緑地では、住民のニーズを踏まえながら再編・再生や適切な維持管理、活用方策について検討し、地域と協働した取組を進めます。
- 錦川や御庄川の自然環境の保全を図るとともに、河川敷等では、防災面に配慮しながら散策路等の親水空間を確保し、川の自然と調和した潤いある景観形成を図ります。
- 豊かな自然林が保全されている岩国自然休養林（城山）については、緑による癒しやレクリエーション等の市民の憩いの場として活用を図ります。
- 本地域の大部分を占める山地・丘陵地では、林業基盤の維持・活用及び山林の適切な維持・管理に努めるとともに、人工林の針葉樹林から混合林等への転換を図る等、貴重な自然環境の保全に努めます。また、市民や企業等と連携しながら適切に保全を図ります。
- 河川等の自然環境への負荷を軽減させるとともに、衛生的で快適な生活環境を整えるため、公共下水道等の整備を推進します。また、公共下水道事業区域外については、合併処理浄化槽の普及に向けた取組を推進し、汚水処理人口普及率の向上に努めます。

④都市防災

- 錦川沿いの地区等は、洪水浸水や高潮浸水が想定されていることから、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、洪水被害や浸水被害を抑止・軽減するため、護岸整備や河川のしゅんせつ、ポンプ場の整備等による自然災害対策の強化に努めます。
- 洪水被害や浸水被害を抑止・軽減するため、錦川水系流域治水プロジェクトに基づき、山口県と連携を図りながら、ポンプ場の整備を行うとともに、河川改修、治山対策等を促進します。
- 市街地の縁辺部の丘陵地や土砂流出等のおそれがある地区等は、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、被害防止のための対策の推進、開発の抑制等による自然災害対策の強化に努めます。

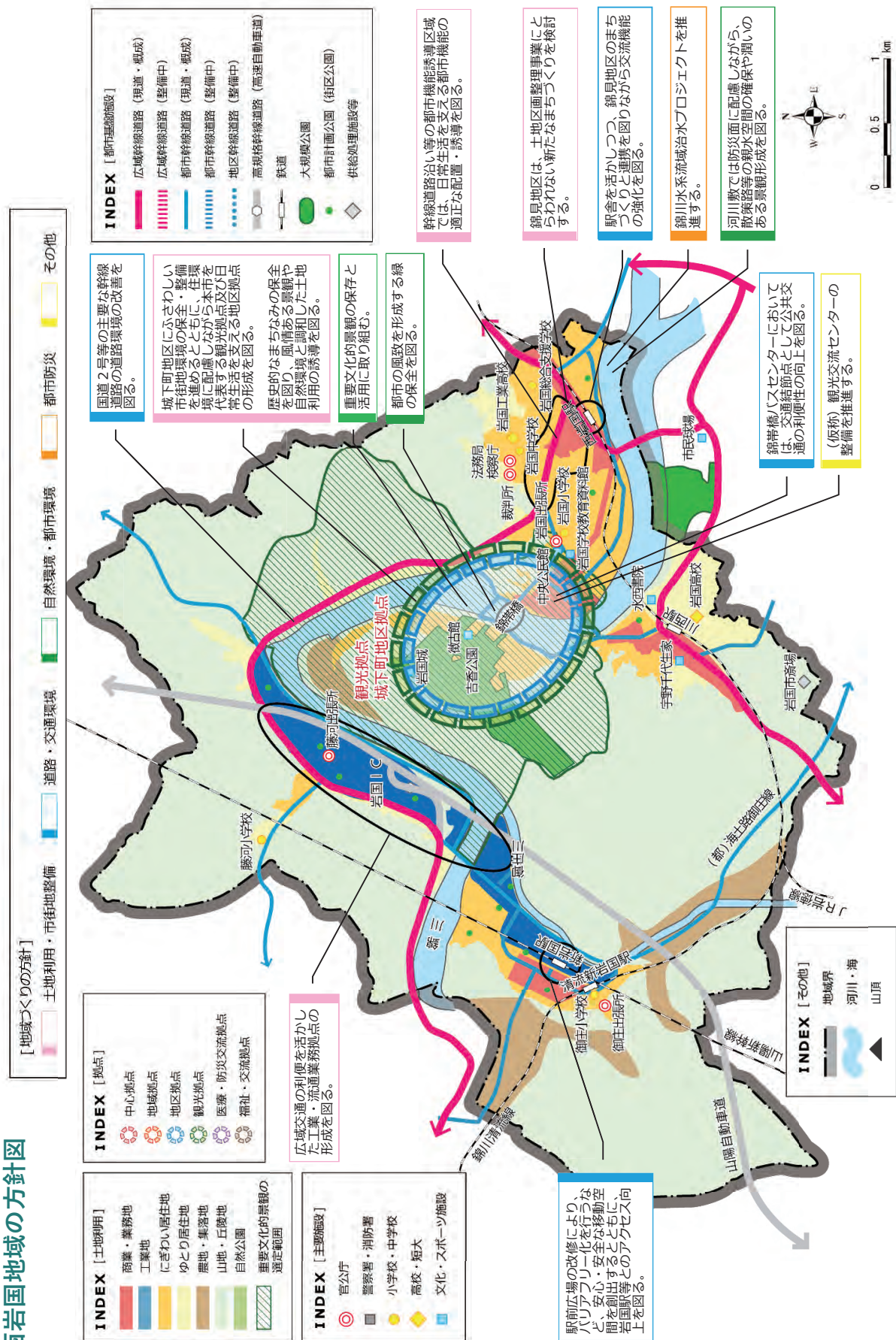
⑤その他

- 日本三名橋に数えられる錦帯橋は、先人達の熱意と努力により今日まで受け継がれてきた岩国の宝であり、将来に確実に継承していくため、世界文化遺産登録に向けた活動を推進します。
- 城下町地区や岩国往来等の歴史・文化遺産を保全するとともに、地域住民やボランティア団体等との協働による地域資源を活かしたまちづくりに取り組みます。
- 城下町地区では、整備を進める駐車場と観光地の入口として観光案内等の必要な機能を持つ（仮称）観光交流センターを一体的に整備します。



錦帯橋

◆ 西岩国地域の方針図



(3) 南岩国地域



◆ 南岩国地域の将来像

**充実した医療・防災機能に支えられ、
誰もが安心して住み続けたいとなるまち**

◆ 南岩国地域の地域づくりの目標

● 市民の安心・安全を担う医療・防災交流拠点の機能強化

愛宕山地区は、いわくに消防防災センターや国立病院機構岩国医療センターなどが整備され、本市の医療・防災交流拠点に位置付けられています。これらの施設を中心に本市の危機管理機能の更なる強化に向けた方策を検討し、強靱なまちの形成を進めます。

● 南岩国駅を中心とした快適なまちなか居住とにぎわいを創出する都市基盤施設の整備

南岩国駅周辺では、『南岩国駅地区まちづくり整備計画』に基づき、土地区画整理事業に代わる新たなまちづくりを進めています。南岩国駅を中心に、都市基盤施設を整備し、地区拠点として日常生活を支える商業・業務等の都市機能の集積を図るとともに、誰もが安心して便利に暮らし続けることができる住環境の形成を図ります。

● ハス田や干潟からなる豊かな自然環境の保全

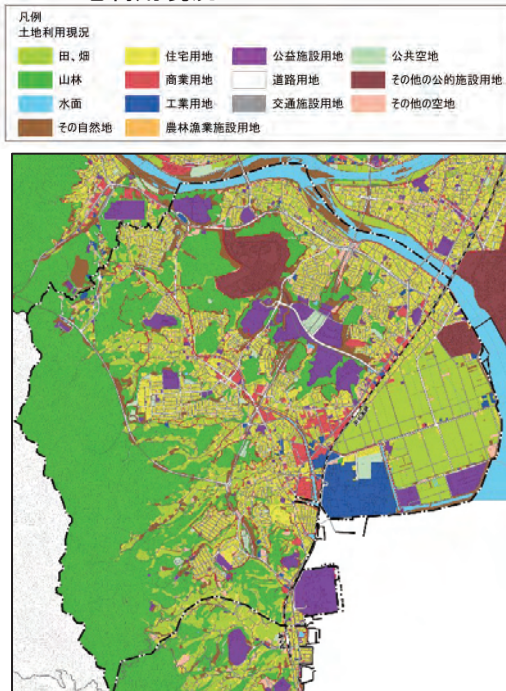
瀬戸内海沿いには豊かな干潟が広がり、干拓地のハス田では市の特産品であるれんこんの栽培が行われています。ハス田は本市を代表する景観でもあることから、営農環境の維持及び豊かな自然環境の保全・活用を図ります。

◆ 南岩国地域の状況

①南岩国地域の特徴

- ・南岩国駅周辺に商業・業務施設や公共公益施設が立地し、丘陵部には計画的に開発された住宅地が整備されており、本市のベッドタウン的な役割を担っています。
- ・愛宕山地区には、いわくに消防防災センターや国立病院機構岩国医療センター等が整備されており、本市の医療・防災の中核を担っています。また、愛宕山地区では愛宕山ふくろう公園、愛宕スポーツコンプレックス、錦川沿いには岩国運動公園が整備されており、スポーツ・レクリエーション施設も充実しています。
- ・沿岸部には干拓地のハス田が広がっており、特産物であるれんこんが栽培されています。

■ 土地利用現況

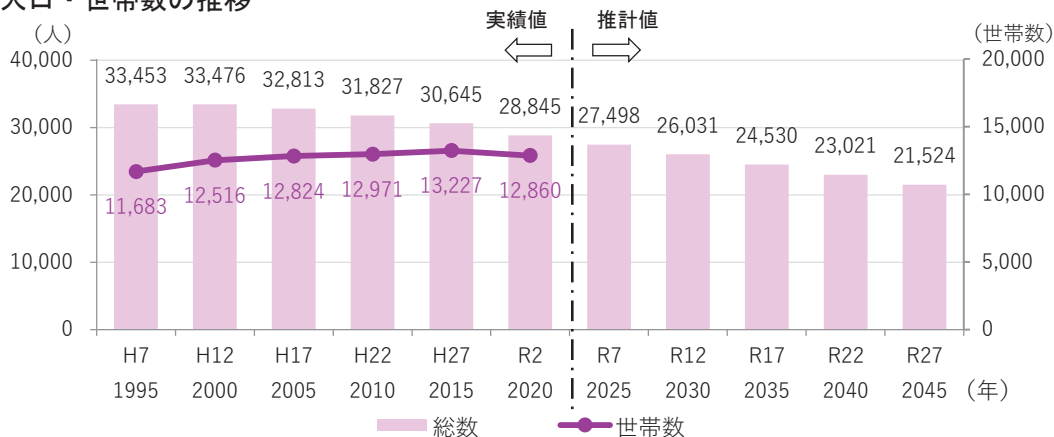


出典：2022（令和4）年度都市計画基礎調査

②人口・世帯数

- ・人口は減少傾向にあり、令和2045（令和27）年の推計人口は2020（令和2）年人口より約25%減少すると推計されています。
- ・世帯数は2015（平成27）年まで増加傾向でしたが、2020（令和2）年には減少に転じ、今後の人口減少に伴い、更に減少すると考えられます。
- ・人口密度は、2020（令和2）年の時点では、丘陵部の開発された住宅地を中心に40人/haを上回っていますが、令和2045（令和27）年には地域全体で低下がみられ、40人/ha以上を維持できるのは平田地区の一部と門前町などにとどまり、用途地域内でも40人/haを下回る地域が拡大すると推計されています。

■ 人口・世帯数の推移



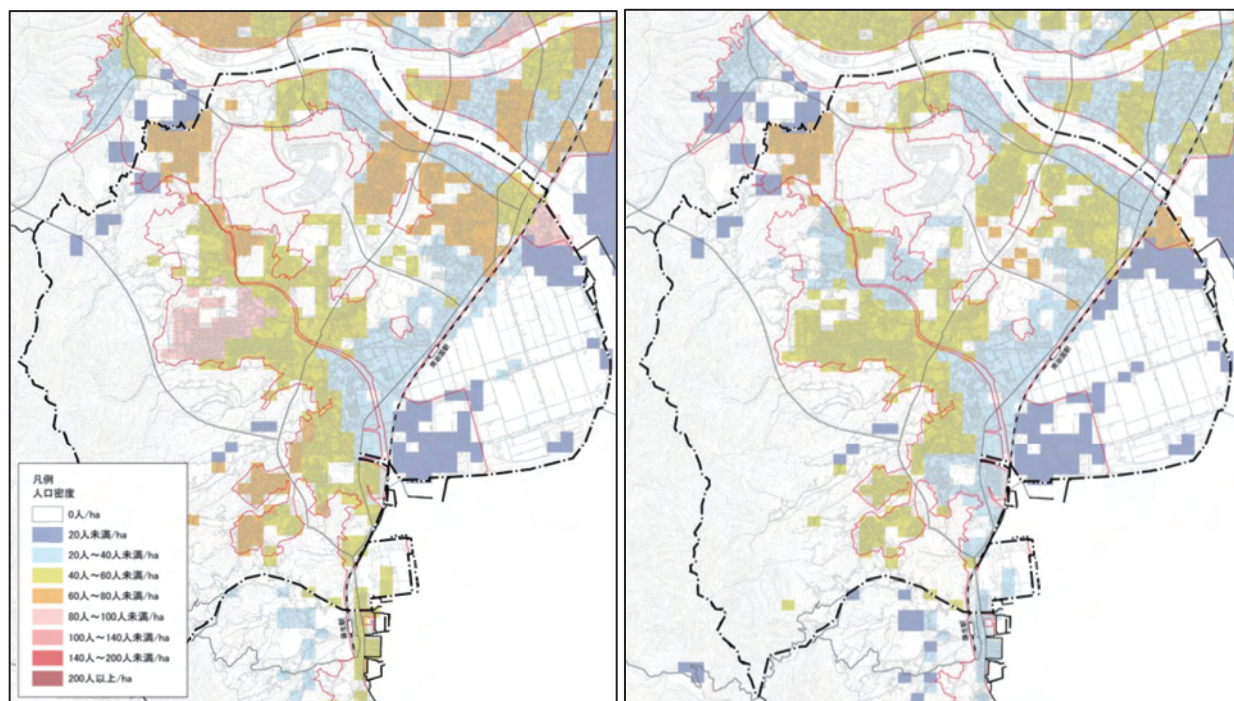
※実績値：総人口は年齢不詳を含んでいる。

推計値：2020（令和2）年国勢調査を基にした推計値。

出典：国勢調査、社人研「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」

■ 2020（令和2）年人口密度

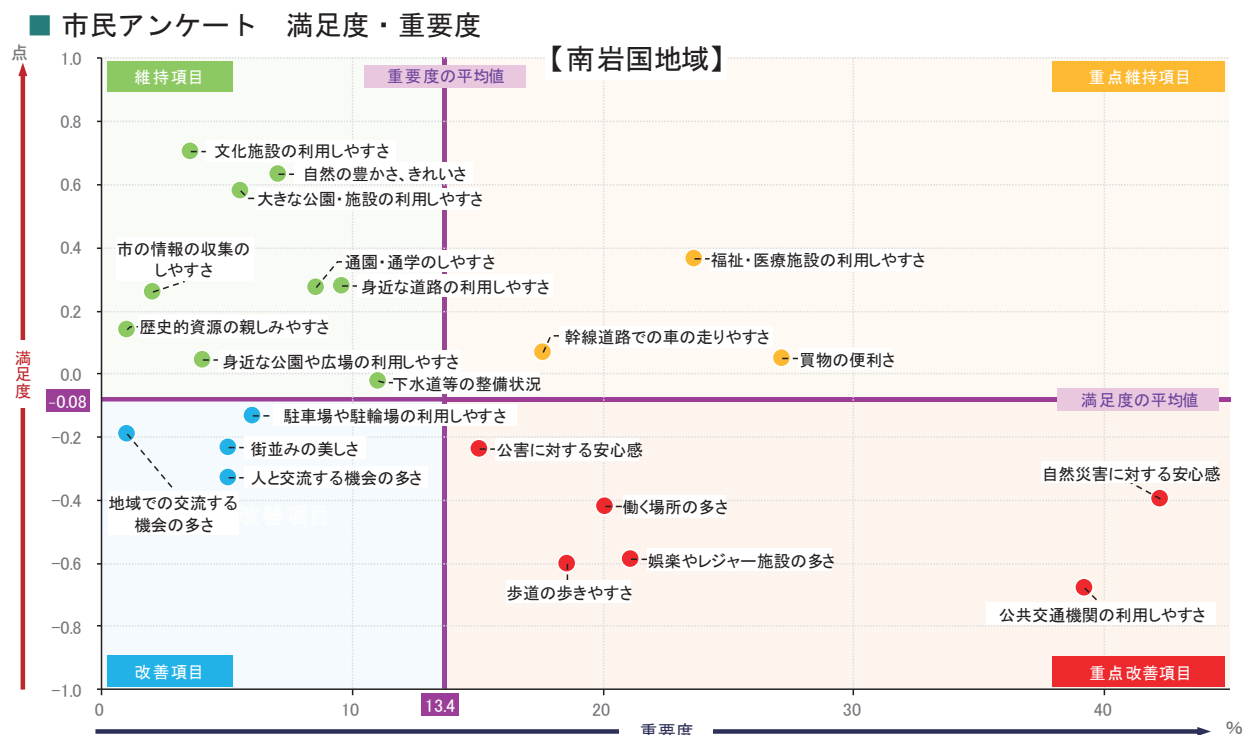
■ 2045（令和27）年人口密度



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」
国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」

※国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」を用いた計算結果を加工して作成

③アンケート結果（満足度・重要度）



満足度・重要度の算出方法

- ・ 満足度：「満足」＋2点、「やや満足」＋1点、「やや不満」－1点、「不満」－2点、「わからない」0点で点数化し、その平均点を算出
- ・ 重要度：各項目の回答数を居住地の居住地域の回答数で割って割合を算出

【満足度・重要度からみた維持や改善すべき項目】

- ・「文化施設の利用しやすさ」「自然の豊かさ、きれいさ」「大きな公園・施設の利用しやすさ」は、満足度が高く、現在の水準が評価されています。いずれも重要度が平均値を下回っており、大きな課題は見られないため、今後も現状の維持が望まれます。
- ・「福祉・医療施設の利用しやすさ」「買い物の便利さ」は、満足度・重要度ともに平均値を上回っており、良好な水準にあるため、今後も現状の維持が望まれます。
- ・「人と交流する機会の多さ」「街並みの美しさ」は、満足度・重要度ともに低く、優先度は相対的に低いものの、今後の動向を踏まえ、必要に応じた対応が望まれます。
- ・「自然災害に対する安心感」「公共交通機関の利用しやすさ」は、満足度が特に低く、重要度が特に高いため、今後、重点的な改善が望まれます。

④地域別ワークショップでの意見

- ・若者が集まるための「にぎわいの場」や「働く場」と、高齢者が暮らしやすい「徒歩圏内の医療・買い物など日常生活の利便性」を求める意見が多くありました。
- ・公共交通では、山陽本線の運行本数の増加を求める意見がありました。
- ・観光・レジャーでは、豊かな自然環境を活かしたキャンプ場などの自然に親しめる場の創出を望む意見がありました。
- ・農業の維持のため、魅力や働きやすさを向上させる必要があるとの意見がありました。

◆ 地域づくりの方針

①土地利用・市街地整備

- 南岩国駅周辺は、『南岩国駅前地区まちづくり整備計画』に基づき、道路整備、公園整備や雨水排水対策などの都市基盤施設の整備を集中的に行うことで、地区拠点として日常生活を支える身近な商業・業務地等の都市機能の集積及び定住の促進とにぎわいの創出を図ります。
- 愛宕山地区は、岩国医療センターやいわくに消防防災センター、防災機能を備えた多目的広場を備えた医療・防災交流拠点であり、周辺緑地の保全等、周辺環境に配慮しながら、これらの施設に相応しい都市機能等の誘導を図ります。
- 国道188号や（都）南岩国停車場天地線等の主要な幹線道路沿いの都市機能誘導区域は、周辺地域の日常生活を支える身近な商業・業務機能等を適正に配置・誘導するとともに、周辺の住宅地と調和した良好な市街地環境の形成を図ります。
- 『岩国市立地適正化計画』で定めたにぎわい居住区域（居住誘導区域）については、生活道路や公園等の日常的な生活基盤施設の整備・改善を進めるとともに、安心して快適に暮らし続けることができる住環境の保全・形成を図ります。
- 南岩国駅東部に広がる干拓地や平田・灘地区の市街地周辺の田園地域は、本市の特産物であるれんこんの生産地であることから、無秩序な市街化を抑制し、優良な農地の保全による営農環境の維持を図ります。

②道路・交通環境

- 南岩国地域と麻里布・川下地域とを結ぶ幹線道路である国道188号の改良・整備を進めるとともに、（都）昭和町藤生線の整備を推進し、円滑な交通環境の形成を目指します。
- 南岩国地域と南部地域や他都市との連携を強化する主要な幹線道路となる藤生長野バイパスの早期完成を促進するとともに、岩国柳井間バイパスの整備に向けた取組を促進します。
- 玖珂地域との連携を強化する主要な幹線道路として、岩国西バイパスの整備に向けた取組を促進します。
- 生活利便性を向上させるため、地域幹線道路*や地区幹線道路*の道路環境の改善・整備を推進します。
- 生活道路のバリアフリー化等を進め、歩行者や自転車が安心して通行できる道路環境の改善を図ります。
- 家屋が密集する地区においては、せまいみち改善事業等を活用し、生活道路の拡幅による居住環境の改善や地域の防災機能の強化を図ります。

- 南岩国駅前整備による駅周辺の回遊性や利便性を活かして、公共交通の利用促進を図ります。



南岩国駅前地区まちづくりの整備イメージ図



南岩国駅前ロータリー

③自然環境・都市環境

- 岩国運動公園では、県東部地域県立武道館（仮称）の整備が進められており、多くの市民に利用される広域的なスポーツ・レクリエーション拠点として、機能充実を図るとともに、施設の適正な維持・管理を行います。
- 街区公園等の地域に身近な公園や緑地では、住民のニーズを踏まえながら再編・再生や適切な維持管理、活用方策について検討し、地域と協働した取組を進めます。
- 門前川や平田川の自然環境の保全を図るとともに、河川敷等では、防災面に配慮しながら散策路等の役割を担う道路や親水空間を確保し、川の自然と調和した潤いある景観形成を図ります。
- 尾津の干拓地では、堤防道路等を活かし、穏やかな瀬戸内海やハス田の景観を楽しむ散策路等の整備・活用を図ります。
- ハス田や干潟の保全を図り、水鳥等の多様な生物と共生できる豊かな水辺の保全・再生等による自然環境の保全に努めます。
- 市街地周辺の山地・丘陵地は、林業基盤の維持・活用及び山林の適切な維持・管理により、貴重な自然環境の保全に努めます。また、都市の風致や潤いに資する貴重な緑として、市民や企業等と連携しながら適切に保全を図ります。
- 河川等の自然環境への負荷を軽減させるとともに、衛生的で快適な生活環境を整えるため、公共下水道等の整備を推進します。また、公共下水道事業区域外については、合併処理浄化槽の普及に向けた取組を推進し、汚水処理人口普及率の向上に努めます。



愛宕山ふくろう公園とインクルーシブ遊具



ハス田

④都市防災

- 愛宕地区、平田地区や南岩国地区等では、洪水浸水や高潮浸水、津波浸水が想定されていることから、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、洪水被害や浸水被害を抑止・軽減するため、護岸整備や河川のしゅんせつ、ポンプ場の整備等による自然災害対策の強化に努めます。
- 洪水被害や浸水被害を抑止・軽減するため、平田川水系流域治水プロジェクトに基づき、山口県と連携しながら、河川改修の促進やポンプ場の改修を推進します。
- 市街地の縁辺部の丘陵地や土砂流出等のおそれがある地区等では、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、被害防止のための対策の推進、開発の抑制等による自然災害対策の強化に努めます。

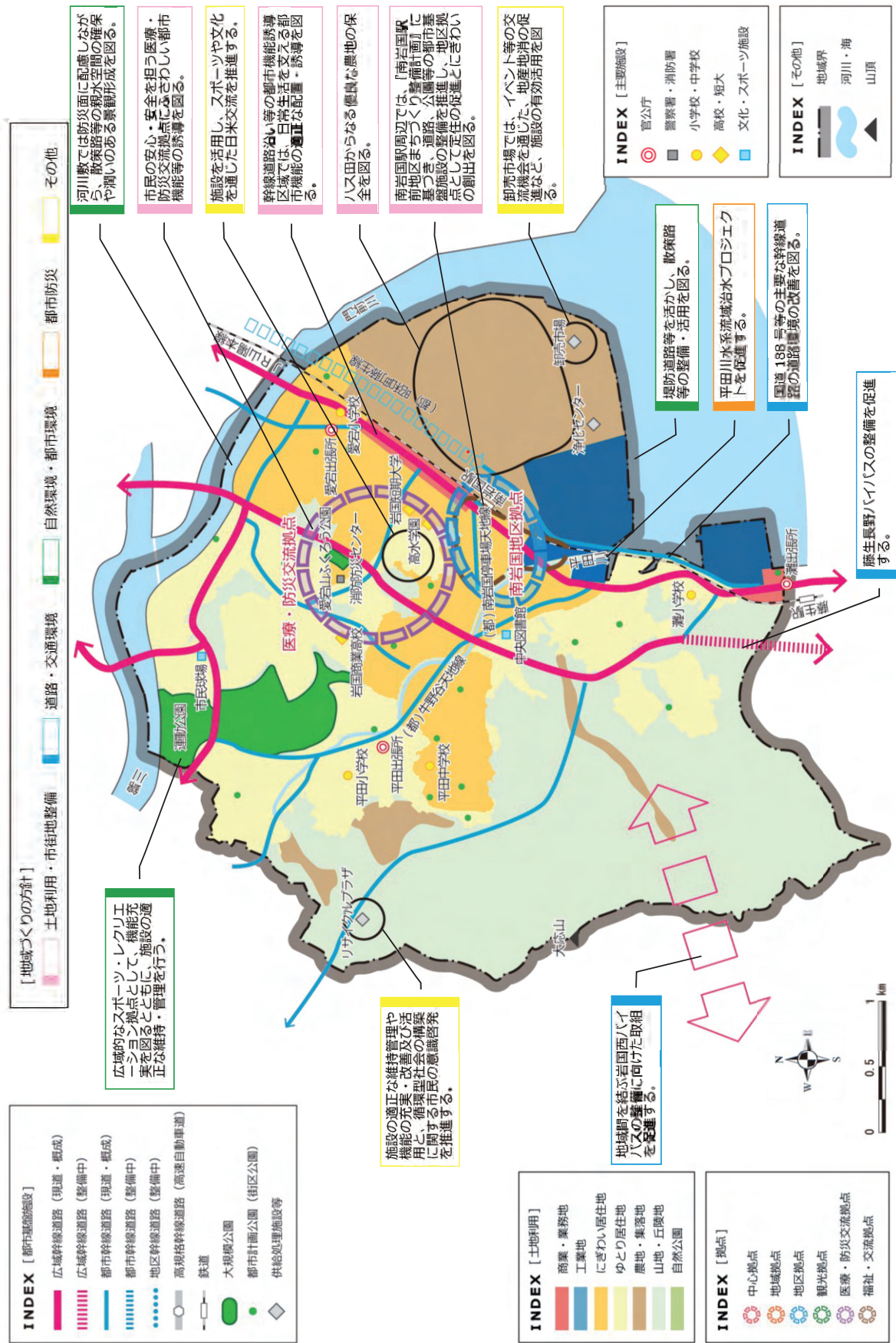
⑤その他

- 卸売市場では、イベント等の交流機会を通じた地産地消の促進など、施設の有効活用を図ります。
- 岩国市リサイクルプラザでは、施設の適正な維持管理や機能の充実・改善及び活用により、ごみの再資源化と適正な処理とともに、循環型社会に関する市民の意識啓発を推進します。
- 愛宕山地区の運動施設エリアにおいては、施設を活用し、スポーツや文化を通じた日米交流を推進します。



ふれあい朝市

◆ 南岩国地域の方針図



(4) 南部地域



◆ 南部地域の将来像

海と山の自然・知・人がつながる、 共生と創造をするまち

◆ 南部地域の地域づくりの目標

● 新たな福祉・交流拠点を契機とした、地域活力の創出

黒磯地区に整備された「いこいと学びの交流テラス」により、地域外からの来訪者が増加することが期待されます。これをきっかけとして、市街地環境の整備を進め、地域の活性化につなげます。

● 海と山に恵まれた自然と共生した市街地の形成

豊かな自然環境と共生した市街地の維持を図るとともに、海や山等の地域資源を活かした魅力あるまちづくりにより、地域の活力創出を図ります。

● 海・川・里山等からなる豊かな自然環境の保全

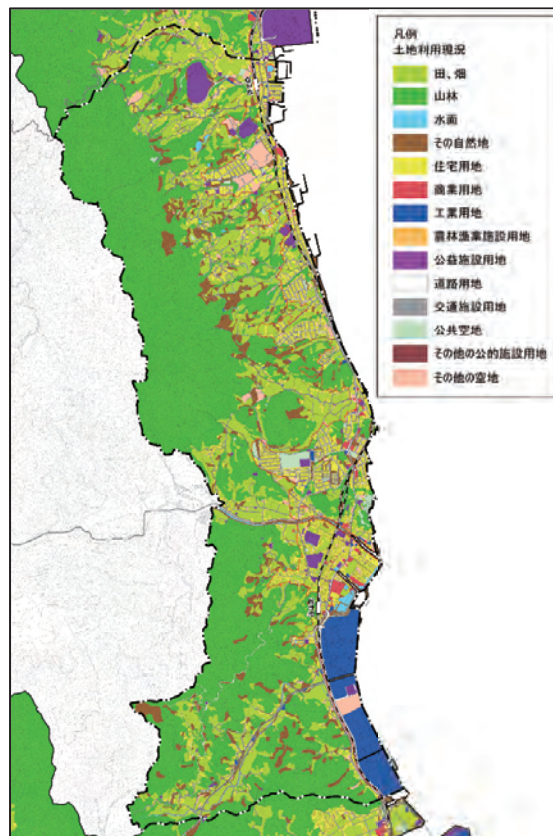
豊かな恵みや潤いを与える海や川、里山等の美しい自然環境は、農業や漁業等の生業の場ともなることから、これらを守り育て、次世代に継承していくため、地域との協働により適切な保全を図るとともに、地域間の交流による地域の活性化を目指します。

◆ 南部地域の状況

①南部地域の特徴

- ・南北に細長いエリアで、西側は山地・丘陵地、東側は瀬戸内海に面しています。
- ・東西方向の谷筋ごとに既存集落や計画的に開発された住宅地が分布しており、本市のベッドタウン的な役割を担っています。
- ・藤生地区から通津地区にかけての沿岸部では漁港が整備されており、既存集落では田畑が分布するなど、第一次産業も盛んな地域となっています。
- ・黒磯地区には福祉・科学学習施設を核とした「いこいと学びの交流テラス」が整備されており、総合的な福祉・交流のまちづくりを目指しています。

■ 土地利用現況

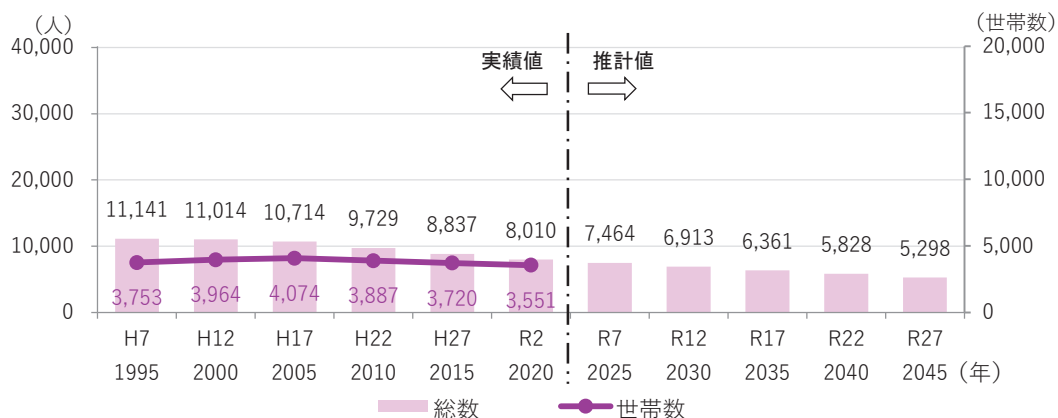


出典：2022（令和4）年度都市計画基礎調査

②人口・世帯数

- ・人口は減少傾向にあり、2045（令和27）年の推計人口は2020（令和2）年人口より約34%減少すると推計されています。
- ・世帯数は2005（平成17）年まで増加傾向にありましたが、2010（平成22）年以降には減少に転じており、今後は人口減少に伴い、更に減少するものと考えられます。
- ・人口密度は、2020（令和2）年時点では丘陵部や沿岸部の計画的に開発された住宅地で40人/haを上回っていますが、2045（令和27）年ではそれらのエリアでも40人/haを下回り、地域全体で人口密度が低下すると推計されています。

■ 人口・世帯数の推移

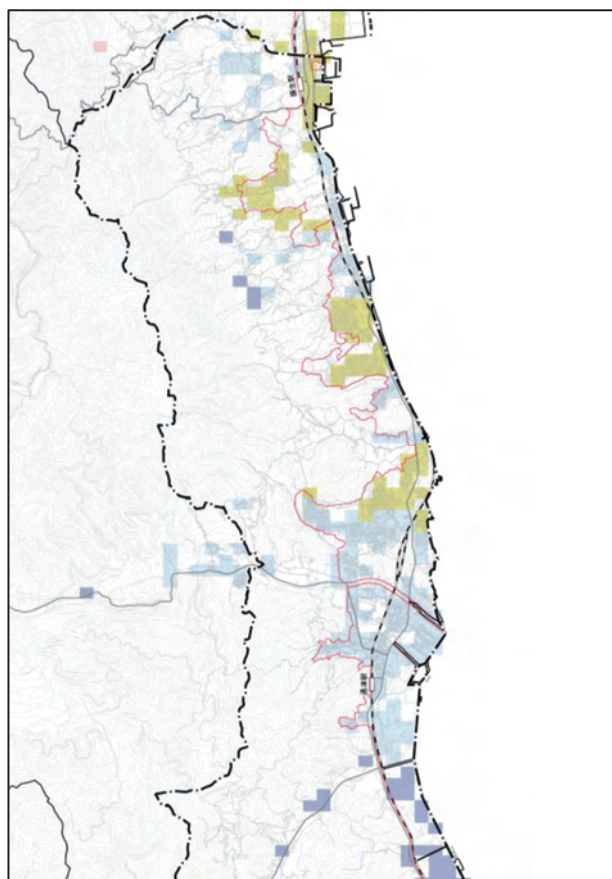


※実績値：総人口は年齢不詳を含んでいる。

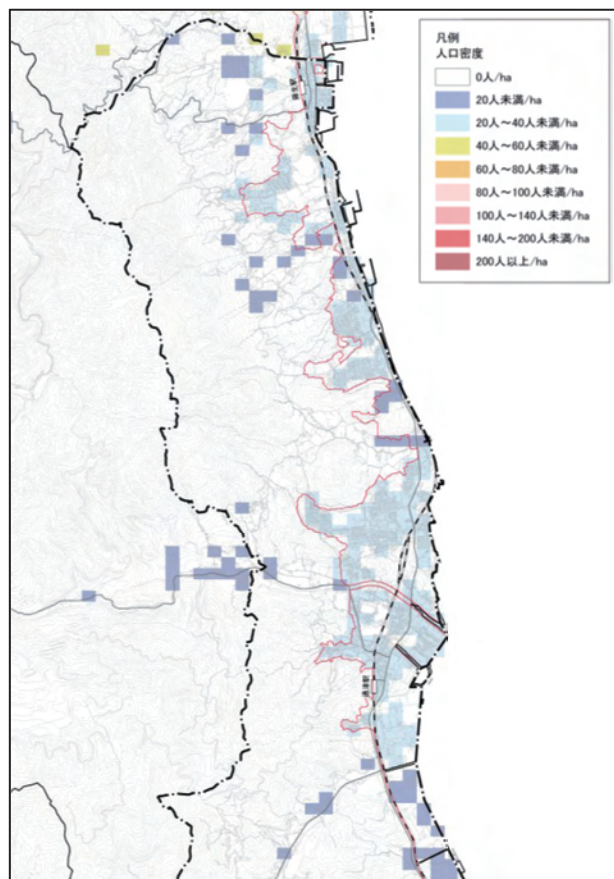
推計値：2020（令和2）年国勢調査を基にした推計値。

出典：国勢調査、社人研「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」

■ 2020（令和2）年人口密度



■ 2045（令和27）年人口密度

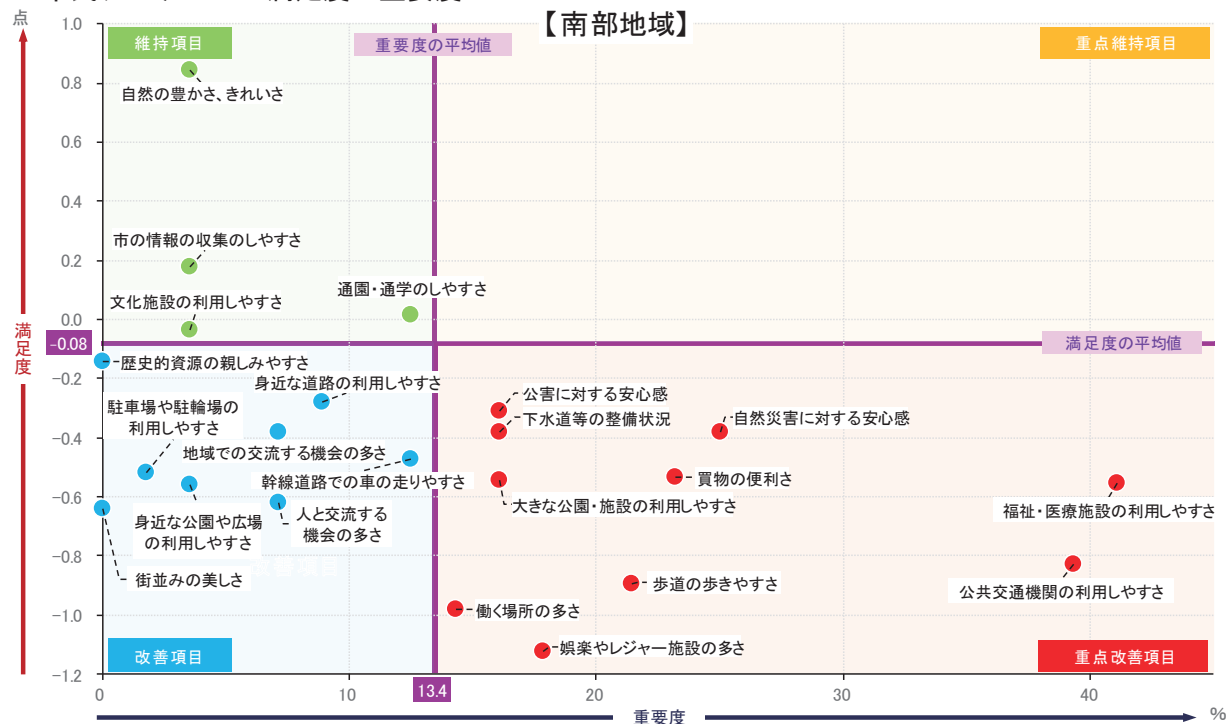


出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」
国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」

※国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」を用いた計算結果を加工して作成

③アンケート結果（満足度・重要度）

■ 市民アンケート 満足度・重要度



満足度・重要度の算出方法

- ・満足度：「満足」＋2点、「やや満足」＋1点、「やや不満」－1点、「不満」－2点、「わからない」0点で点数化し、その平均点を算出
- ・重要度：各項目の回答数を居住地域の居住地域の回答数で割って割合を算出

【満足度・重要度からみた維持や改善すべき項目】

- ・「自然の豊かさ、きれいさ」は、満足度が最も高く、「市の情報の収集のしやすさ」「通園・通学のしやすさ」「文化施設の利用しやすさ」についても、比較的満足度が高くなっています。一方、これらはいずれも重要度が平均値を下回っており、現時点で大きな課題は見られため、今後も現状の維持が望まれます。
- ・「人と交流する機会の多さ」「身近な公園や広場の利用しやすさ」は、満足度・重要度がともに低く、優先度は相対的に低いものの、今後の動向を踏まえた改善が望まれます。
- ・「福祉・医療施設の利用しやすさ」「公共交通機関の利用しやすさ」は、満足度が低く、重要度が特に高いため、重点的な改善が望まれます。また、「いこいと学びの交流テラス」の開設に伴う行動変化については、その動向を把握し、今後の施策に反映していく必要があります。

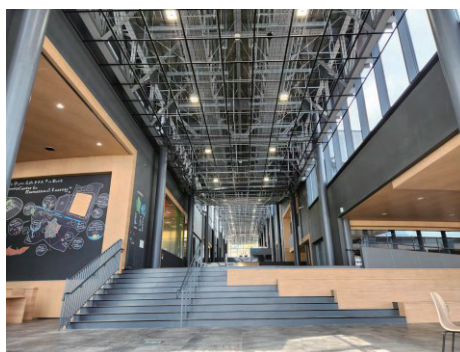
④地域別ワークショップでの意見

- ・若者が集まるための「にぎわいの場」や「働く場」と、高齢者が暮らしやすい「医療・買い物など日常生活の利便性」を求める意見が多くありました。
- ・公共交通では、山陽本線の運行本数の増加や公共交通のバリアフリー化を望む意見がありました。
- ・道路整備では、藤生・長野バイパスの延伸を望む意見がありました。
- ・防災では洪水被害に対する意見が多くありましたが、放置された空家への対策を望む意見もありました。また、空家を活用した若者の学習拠点の整備などの活用策の意見もありました。

◆ 地域づくりの方針

①土地利用・市街地整備

- ・ 藤生駅周辺や通津駅周辺では、日常生活を支える身近な商業・業務地の形成を図ります。
- ・ 通津地区から由宇地域にかけての臨海部の工業地域では、多様な企業活動を支える環境の維持・増進を図るとともに、通津・由宇間での連携を促進し、本市の産業を支える一体的な工業拠点の形成を図ります。
- ・ 中低層住宅や店舗等からなる一般住宅地では、生活道路や公園等の日常的な生活基盤施設の整備・改善を進めるとともに、安心して快適に暮らし続けることができる住環境の保全・形成を図ります。
- ・ 「いこいと学びの交流テラス」の整備を契機に、周辺地域の住環境や自然環境等に配慮しつつ、地域の活性化に資する都市機能や居住の誘導に向けて、必要に応じて用途地域の指定や見直しを行います。
- ・ 藤生地区から通津地区にかけての漁港や周辺の集落では、漁港施設や集落環境の維持・増進を図りつつ、海や港を活かした地域間の交流の促進等により、雇用の場の創出や地産地消の増進等による地域の活性化を目指します。
- ・ 市街地周辺に広がる田園地域では、無秩序な市街化を抑制し、優良な農地の保全による営農環境を維持するとともに、既存集落の居住環境の改善等による集落の活力維持を図ります。
- ・ 遊休農地については、担い手の育成等により農地としての有効活用・機能維持を促すとともに農作業体験等の都市・農村交流の場として維持・活用を図り、農業環境の維持と活力創出を図ります。



いこいと学びの交流テラス

②道路・交通環境

- ・ 南部地域と麻里布・川下地域とを結ぶ幹線道路である藤生長野バイパスの早期完成を促進するとともに、岩国柳井間バイパスの整備に向けた取組を促進します。

- 藤生長野バイパス整備に伴い、バイパスへのアクセス道路の整備を推進します。
- 南部地域と麻里布・川下地域とを結ぶ幹線道路である国道188号の道路改良・整備を促進し、円滑な交通環境の形成を目指します。
- 「いこいと学びの交流テラス」と藤生駅とを結ぶ生活道路を整備し、安全・快適な歩行空間を確保します。
- 生活利便性を向上させるため、地域幹線道路や地区幹線道路の道路環境の改善・整備を推進します。
- 生活道路のバリアフリー化等を進め、歩行者や自転車が安心して通行できる道路環境の改善を図ります。
- 家屋が密集する地区においては、せまいみち改善事業等を活用し、生活道路の拡幅による居住環境の改善や地域の防災機能の強化を図ります。
- 藤生駅、通津駅では、駐輪場等の整備により、利便性の向上を図ります。



通津駅

③自然環境・都市環境

- 通津美ヶ浦では、瀬戸内海への眺望や浜辺と一体となった海辺のレクリエーションの場となる公園の維持・活用を図ります。
- 街区公園等の地域に身近な公園や緑地では、住民のニーズを踏まえながら再編・再生や適切な維持管理、活用方策について検討し、地域と協働した取組を進めます。
- 瀬戸内海沿岸では、自然海岸等の貴重な自然環境を保全するとともに、美しい海辺の景観を活かしたレクリエーション空間として活用を図ります。
- 通津川の自然環境の保全を図るとともに、河川敷等では、防災面に配慮しながら川の自然に親しめる空間の整備を促進し、川と集落が調和した潤いある景観形成を図ります。
- 建築・開発行為については、背後の山および瀬戸内海の美しい自然環境や周辺環境と調和した市街地形成に向けて、適切な指導・助言を行います。
- 市街地周辺の山地・丘陵地は、林業基盤の維持・活用及び山林の適切な維持・管理により、貴重な自然環境の保全に努めます。また、市街地の潤いに資する貴重な緑として、市民や企業等と連携しながら適切に保全を図ります。

- 瀬戸内海を守り育てるため、地域と協働して里山を保全するとともに、環境学習・体験学習の場として活用を図ります。
- 河川等の自然環境への負荷を軽減させるとともに、衛生的で快適な生活環境を整えるため、合併処理浄化槽の普及に向けた取組を推進し、汚水処理人口普及率の向上に努めます。



通津川

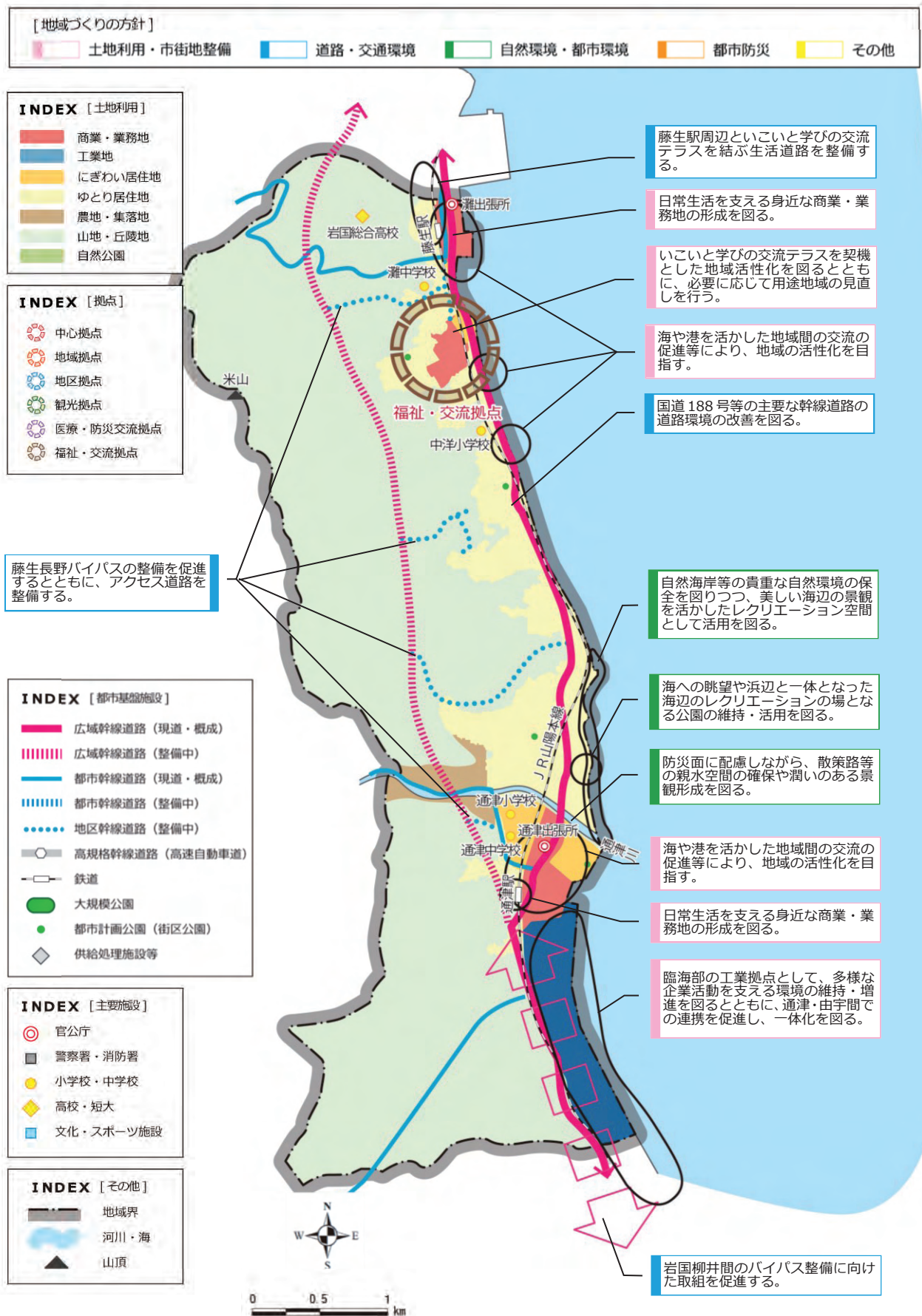


通津の自然海岸

④都市防災

- 藤生地区や通津地区等の瀬戸内海沿岸部に広がる市街地や集落等では、高潮浸水、津波浸水が想定されていることから、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、漁港の堤防等の施設の老朽化対策や改修を行います。
- 丘陵部の住宅地の縁辺部などの土砂崩壊や土砂流出等のおそれがある地区等では、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、被害防止のための対策の推進、開発の抑制等による自然災害対策の強化に努めます。

◆ 南部地域の方針図



(5) 由宇地域



◆ 由宇地域の将来像

**恵まれた海・山の自然が地域交流を生み出す
魅力あふれるまち**

◆ 由宇地域の地域づくりの目標

● 地域の生活を支える親しみと魅力ある地域拠点の形成

由宇駅周辺に地域住民の生活を支える機能の維持・充実を図ることで、暮らしやすい魅力ある地域拠点を形成します。あわせて、地域住民の活動を支援し、地域から親しまれ魅力あるまちづくりを進めます。

● 自然の海や港を活かした市内外の交流の創出

美しい瀬戸内海を活かした海水浴や釣り等の自然体験型のレクリエーションの充実を図ることで、自然とのふれあいや市内外の人の交流を創出するとともに、雇用の場の創出や地産地消の推進による地域の活性化を目指します。

● 水と緑からなる豊かな自然と共生した市街地の形成

瀬戸内海や由宇川、里山等の豊かな自然に恵まれた本地域では、自然環境と共生した住環境を保全するとともに、自然景観に配慮したまとまりのある市街地の形成を図ります。また、自然災害による被害の抑制・軽減に向けた対策を進めます。

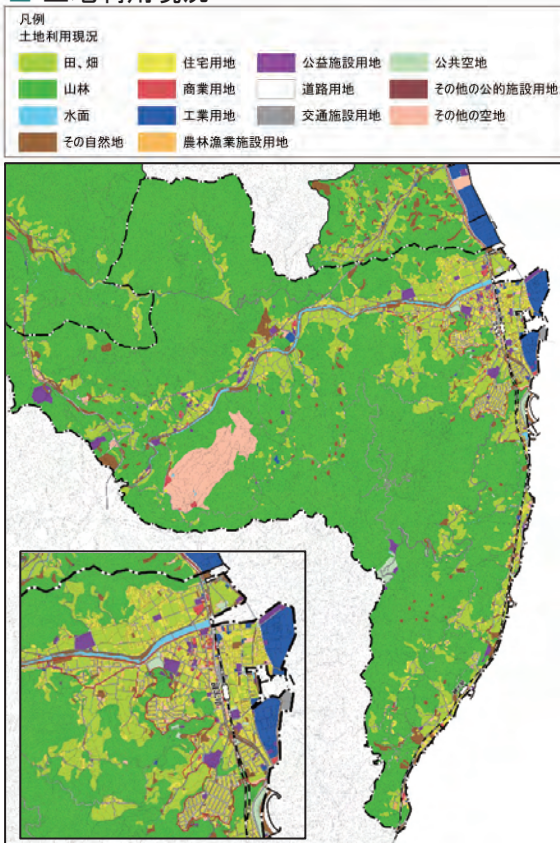
◆ 由宇地域の状況

① 由宇地域の特徴

- ・ 由宇駅周辺の市街地に、由宇総合支所や文化会館等の公共施設や、地域住民の生活を支える商業、業務施設が立地しています。
- ・ 市街地の縁辺部には、計画的に整備された住宅地が分布しています。近年、用途地域外の農地の宅地化が進んでいます。
- ・ 沿岸部には、由宇漁港等における漁業、工場の立地などが見られます。また、市内唯一の海水浴場がある潮風公園みなどオアシスゆうなど、自然を活かしたレクリエーションの場でもあります。

出典：2022（令和4）年度都市計画基礎調査

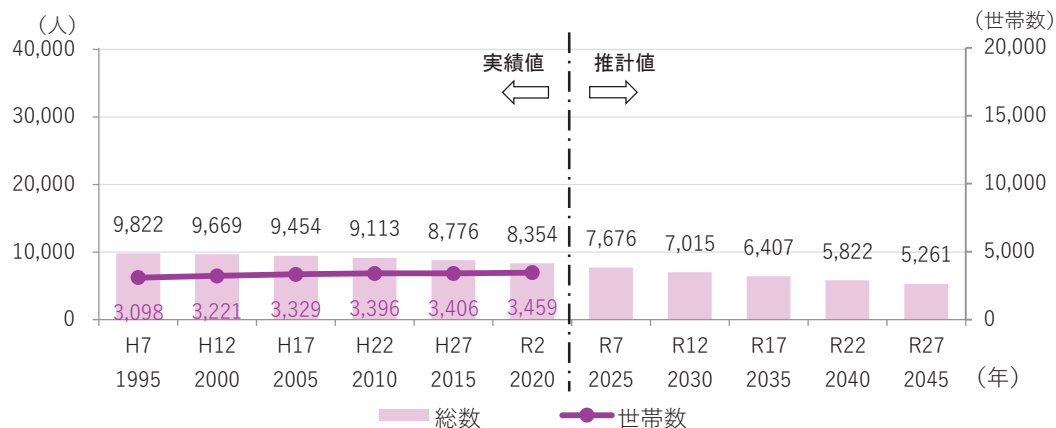
■ 土地利用現況



② 人口・世帯数

- ・ 人口は減少傾向にあり、2045（令和27）年の推計人口は2020（令和2）年人口より約37%減少すると推計されています。
- ・ 世帯数は増加傾向にありますが、今後は人口減少に伴い減少するものと考えられます。
- ・ 人口密度は、2020（令和2）年時点では駅周辺よりも駅から少し離れた住宅地で40人/haを上回っていますが、2045（令和27）年では地域全体で人口密度の低下がみられ、用途地域内では由宇町港の一部を除き、ほぼすべてが40人/haを下回ります。
- ・ また、用途地域外の由宇町北の一部で、人口密度が40人/ha以上を維持すると推計されています。

■ 人口・世帯数の推移

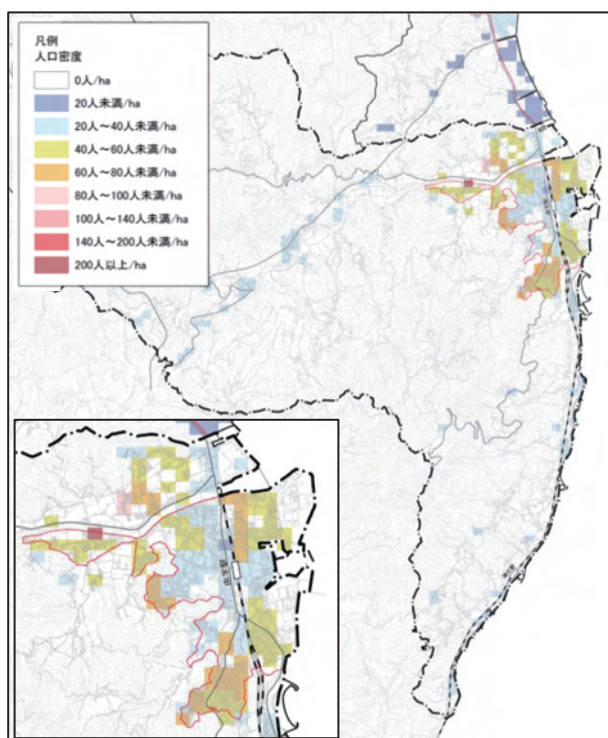


※実績値：総人口は年齢不詳を含んでいる。

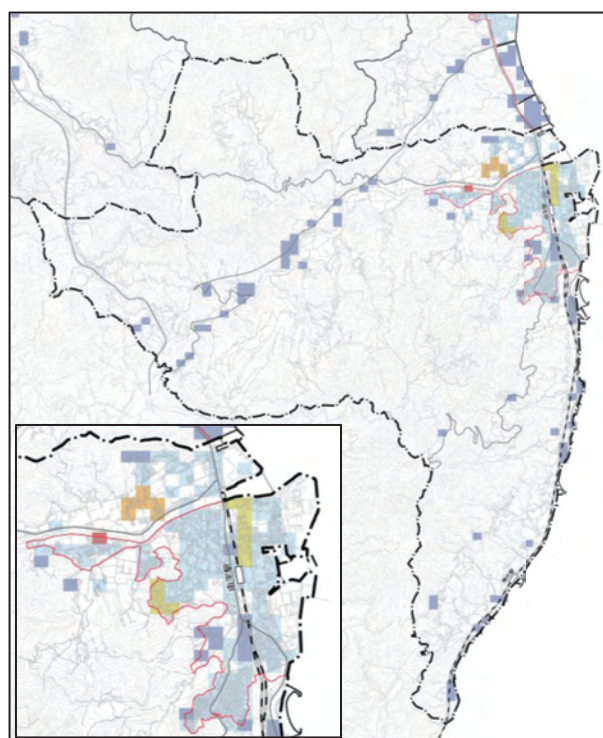
推計値：2020（令和2）年国勢調査を基にした推計値。

出典：国勢調査、社人研「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」

■ 2020（令和2）年人口密度



■ 2045（令和27）年人口密度

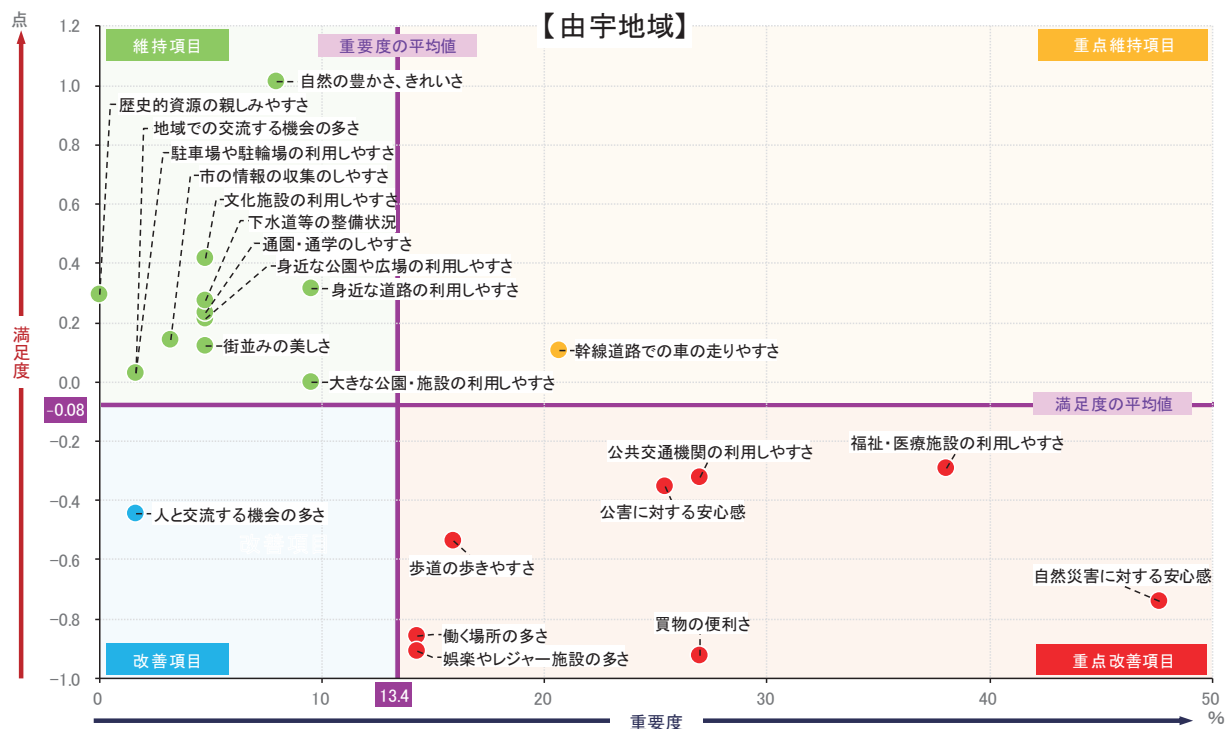


出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2023（令和5）年推計）」
国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」

※国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」を用いた計算結果を加工して作成

③アンケート結果（満足度・重要度）

■ 市民アンケート 満足度・重要度



満足度・重要度の算出方法

- ・満足度：「満足」＋2点、「やや満足」＋1点、「やや不満」－1点、「不満」－2点、「わからない」0点で点数化し、その平均点を算出
- ・重要度：各項目の回答数を居住地域の居住地域の回答数で割って割合を算出

【満足度・重要度からみた維持や改善すべき項目】

- ・「自然の豊かさ、きれいさ」は、満足度が最も高く、「文化施設の利用しやすさ」「身近な道路の利用しやすさ」についても、比較的満足度が高くなっています。一方、これらはいずれも重要度が平均値を下回っており、現時点で大きな課題は見られないため、今後も現状の維持が望めます。
- ・「幹線道路での車の走りやすさ」は、満足度・重要度ともに平均値を上回っており、今後も維持が望めます。
- ・「買物の便利さ」は、満足度が低く、重要度は平均値を上回っており、重点的な改善が望めます。
- ・「自然災害に対する安心感」「福祉・医療施設の利用しやすさ」は、満足度が平均値を下回っている一方で、重要度が特に高いため、重点的な改善が望めます。
- ・「公共交通機関の利用しやすさ」「公害に対する安心感」は、満足度が平均値を下回っている一方で、重要度は平均値を上回っているため、重点的な改善が望めます。
- ・「人と交流する機会の多さ」は満足度・重要度ともに低いものの、地域コミュニティの活性化等の観点から改善が望めます。
- ・「大きな公園・施設の利用しやすさ」は、満足度が平均値付近にあり、重要度は平均値を下回っているため、既存施設の利便性向上や活用の充実が望めます。
- ・「歩道の歩きやすさ」「働く場所の多さ」「娯楽・レジャー施設の充実」は、満足度が特に低く、重要度は平均値付近にあるため、最優先ではないものの段階的な改善が望めます。

④地域別ワークショップでの意見

- ・若者が集まるための「にぎわいの場」や「働く場」と、高齢者が暮らしやすい「医療・買い物など日常生活の利便性」を求める意見が多くありました。
- ・道路整備では、藤生長野バイパス延伸を望む意見のほか、既存道路において拡幅や通学路の整備などの意見がありました。
- ・観光・レジャーでは、潮風公園を活かした整備や道の駅の誘致を望む意見のほか、祭りや神楽などの地域の伝統的な行事を観光資源として残していきたいとの意見がありました。
- ・防災では、地震対策を望む意見がありました。
- ・高齢者の健康寿命を延ばす予防教室などの活動を広げていくべきとの意見がありました。

◆ 地域づくりの方針

①土地利用・市街地整備

- 由宇駅周辺から由宇総合支所周辺にかけての由宇地域の中心的な役割を担う市街地では、地域生活を支える商業・業務機能や保健・医療・福祉等の多様な機能を集積することにより、地域拠点として機能の維持と強化を図ります。
- 由宇総合支所については、老朽化が顕著なことから、将来を見据えて、他の施設との複合化や適正規模での建替えを含め、施設の在り方を検討します。
- 由宇駅周辺では、魅力ある商業地を形成し、地域のにぎわいの創出を図ります。
- 瀬戸内海沿いの潮風公園みなとオアシスゆうや由宇港周辺の釣り場、広島東洋カープ由宇練習場などの観光・レクリエーション施設を活かして、地域の活性化を図ります。
- 由宇地域から通津地区にかけての臨海部の工業地域では、多様な企業活動を支える環境の維持・増進を図るとともに、通津・由宇間での連携を促進し、本市の産業を支える一体的な工業拠点の形成を図ります。
- 『岩国市立地適正化計画』で定めたにぎわい居住区域（居住誘導区域）については、生活道路や公園等の日常的な生活基盤施設の整備・改善を進めるとともに、安心して快適に暮らし続けることができる住環境の保全・形成を図ります。
- 丘陵地等で開発された住宅地や新たに開発される住宅地では、背後の山の緑や目の前に広がる瀬戸内海からなる自然環境との調和に配慮し、建築協定や地区計画等を活用した良好な住環境の維持・形成を図ります。
- 神東地区から神代地区にかけての漁港や集落では、漁港施設や集落環境の維持・増進を図りつつ、海や港を活かした地域間の交流の促進等により、雇用の場の創出や地産地消の推進等による地域の活性化を目指します。
- 堀田地区の用途白地地域では、農地の宅地化が進みつつありますが、洪水や高潮、津波による浸水が想定されていることから、特定用途制限地域の指定等を検討するとともに、無秩序な開発を抑制しつつ安全を確保し、農地と住宅が共存できる環境づくりを進めます。
- 瀬戸内海沿岸や由宇川沿いに広がる田園地域では、無秩序な開発を抑制し、優良な農地の保全による営農環境を適切に維持するとともに、既存集落の居住環境の改善等による集落の活力維持を図ります。
- 遊休農地については、担い手の育成等により農地としての有効活用・機能維持を促すとともに農作業体験等の都市・農村交流の場として維持・活用を図り、農業環境の維持と活力創出を図ります。



由宇町の商店街



由宇港

②道路・交通環境

- 由宇地域と岩国地域とを結ぶ幹線道路である国道188号の改良・整備を進め、円滑な交通環境の形成を目指します。
- 由宇地域と岩国地域や他都市との連携を強化する主要な幹線道路となる藤生長野バイパスの早期完成を促進するとともに、岩国柳井間バイパスの整備に向けた取組を促進します。
- 生活利便性を向上させるため、地域幹線道路や地区幹線道路の道路環境の改善・整備を推進します。
- 生活道路のバリアフリー化等を進め、歩行者や自転車が安心して通行できる道路環境の改善を図ります。
- 家屋が密集する地区においては、せまいみち改善事業等を活用し、生活道路の拡幅による居住環境の改善や地域の防災機能の強化を図ります。
- 由宇駅、神代駅では、駅前広場等の整備により、交通結節機能の強化及び利便性の向上を図ります。

③自然環境・都市環境

- 潮風公園みなとオアシスゆう周辺では、瀬戸内海を活かした地域交流拠点として、自然体験型の学習及びレクリエーション空間の活用・充実を図ります。
- 由宇グラウンド等の公園や広場は、地域に身近なスポーツ・レクリエーションの場として適切に維持・管理するとともに、地域と協働しながら有効活用を図ります。
- 街区公園等の地域に身近な公園や緑地では、住民のニーズを踏まえながら再編・再生や適切な維持管理、活用方策について検討し、地域と協働した取組を進めます。
- 瀬戸内海沿岸では、自然海岸等の貴重な自然環境を保全するとともに、美しい海辺の景観を活かしたレクリエーション空間として活用を図ります。

- 由宇川の自然環境の保全を図るとともに、河川敷等では、防災面に配慮しながら川の自然に親しめる空間の整備を促進し、川と市街地や集落が調和した美しい田園景観の保全・形成を図ります。
- 銭壺山では、緑豊かな自然環境を保全し、瀬戸内海と島々を望むビュースポットとなる空間の整備や身近な自然を楽しめるレクリエーションの場としての活用を図るとともに、アクセス道路の改善など利便性の向上に努めます。
- 建築・開発行為については、背後の山および瀬戸内海の美しい自然環境や周辺環境と調和した市街地形成に向けて、適切な指導・助言を行います。
- 市街地周辺の山地・丘陵地は、林業基盤の維持・活用及び山林の適切な維持・管理により、貴重な自然環境の保全に努めます。また、市街地の潤いに資する貴重な緑として、市民や企業等と連携しながら適切に保全を図ります。
- 瀬戸内海の海を守り育てるため、地域と協働して里山を保全するとともに、環境学習・体験学習の場として活用を図ります。
- 河川等の自然環境への負荷を軽減させるとともに、衛生的で快適な生活環境を整えるため、公共下水道等の整備を推進します。また、公共下水道事業区域外については、合併処理浄化槽の普及に向けた取組を推進し、汚水処理人口普及率の向上に努めます。



銭壺山からの瀬戸内海の眺望



潮風公園みなとオアシスゆう

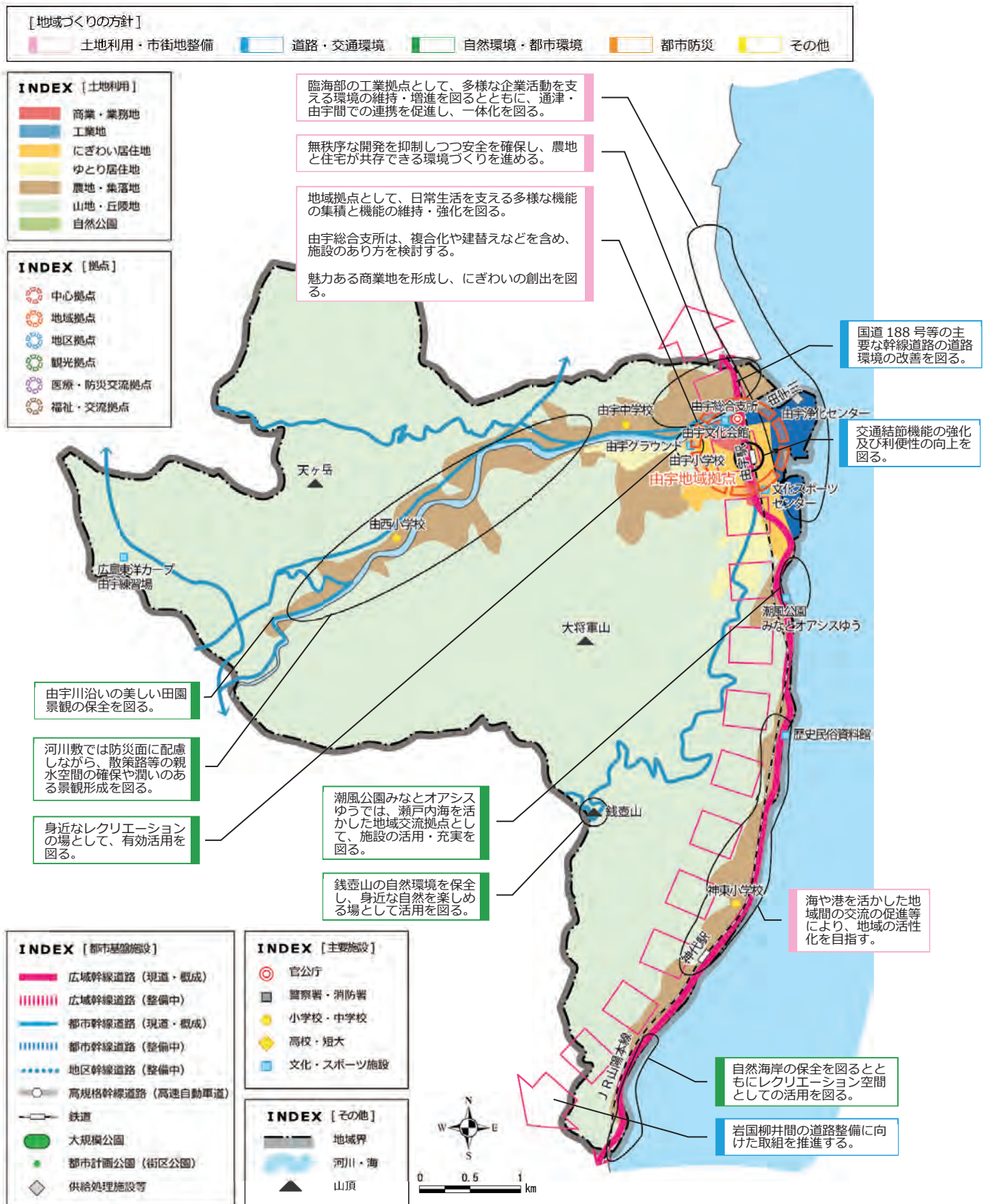
④都市防災

- 瀬戸内海沿岸部、由宇川沿いに広がる市街地や集落等では、洪水浸水や高潮浸水、津波浸水が想定されていることから、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、洪水被害や浸水被害を抑止・軽減するため、護岸整備等による自然災害対策の強化に努めます。
- 市街地縁辺部の丘陵地などの土砂崩壊や土砂流出等のおそれがある地区等では、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、被害防止のための対策の推進、開発の抑制等による自然災害対策の強化に努めます。

⑤その他

- 地域との協働のもと、瀬戸内海沿いの潮風公園みなとオアシスゆうや由宇港周辺の釣り場、広島東洋カープ由宇練習場等の地域資源を活かした個性あるまちづくりに取り組むことにより、地域間での交流を促進し、地域活力の創出を図ります。

◆ 由宇地域の方針図



(6) 周東・玖珂地域



◆ 周東・玖珂地域の将来像

豊かな自然・産業が調和した生活利便の高い田園都市

◆ 周東・玖珂地域の地域づくりの目標

● 拠点施設を核とした交流とにぎわいある地域拠点の形成

周防高森駅周辺および玖珂駅周辺は、総合センター日向（周東総合支所）や総合センター奏（玖珂支所）と一体となって日常生活を支える多様な都市機能の維持・充実を図ることで、便利で暮らしやすい魅力ある地区拠点を形成します。また、玖西盆地としてのまとまりを活かし、両拠点が連携しながら一体的な地域づくりを目指します。

● 広域交通利便を活かした内陸産業拠点の形成

市街地に近接してインターチェンジが立地する広域交通利便を活かし、内陸型の産業・流通業務機能の集積を行い、産業拠点の形成と雇用の創出を図ります。

● 地域の資源を活かしながらゆったりと暮らせる住環境の保全・形成

個々の地域の歴史や文化を継承しつつ、玖西盆地の豊かな自然に恵まれた潤いある住環境の保全・形成により、ゆとりのある中でもまとまりある市街地の形成を図ります。

◆ 周東・玖珂地域の状況

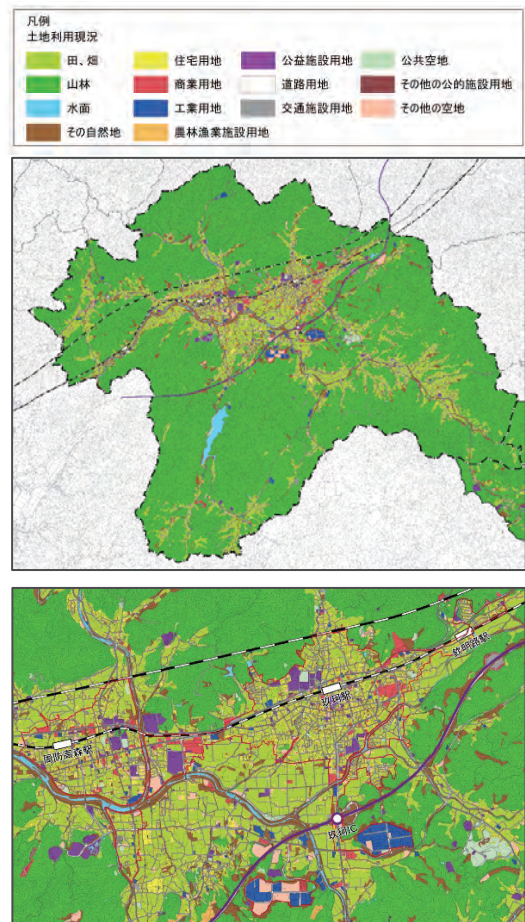
①周東・玖珂地域の特徴

- ・周辺を山林に囲まれた玖西盆地に位置する市街地で、新たに整備した総合センター日向（周東総合支所）や総合センター奏（玖珂支所）では、行政機能だけでなく図書館や公民館等の施設を併設し、地域交流の拠点として地域住民が集まる場を有しています。
- ・地域内には、山陽自動車道玖珂インターチェンジがあり、広域交通の利便性の高さを活かし瀬田工業団地やテクノポート周東の工業団地が立地しています。
- ・非線引き都市計画区域であるため、用途地域指定区域外にも住宅が立地しています。

②人口・世帯数

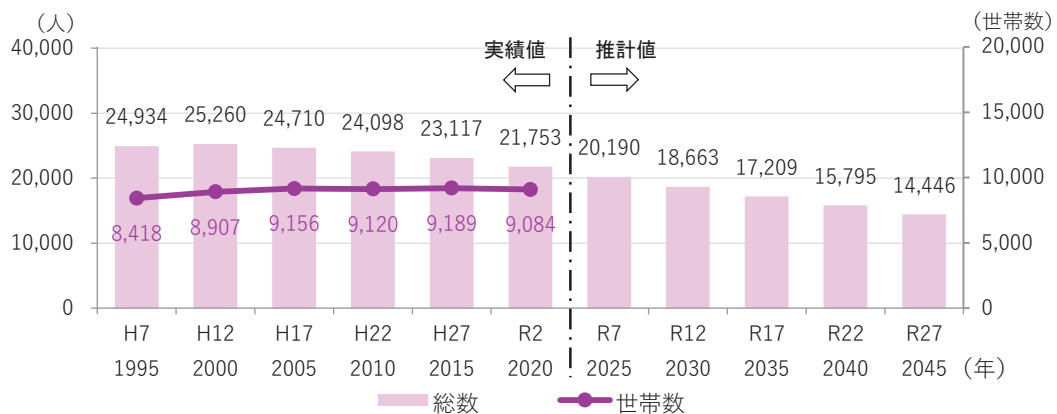
- ・人口は減少傾向にあり、2045（令和 27）年の推計人口は 2020（令和 2）年人口より約 34%減少すると推計されています。
- ・世帯数は 2015（平成 27）年まで増加傾向にありましたが、2020（令和 2）年には減少に転じており、今後は人口減少に伴い、更に減少するものと考えられます。
- ・人口密度は、周防高森駅周辺や玖珂駅から欽明路駅にかけての欽明路バイパス周辺で 40 人/ha を上回っていますが、2045（令和 27）年ではそれらのエリアでも 40 人/ha を下回り、地域全体で人口密度が低下すると推計されています。

■ 土地利用現況



出典：2022（令和 4）年度都市計画基礎調査

■ 人口・世帯数の推移

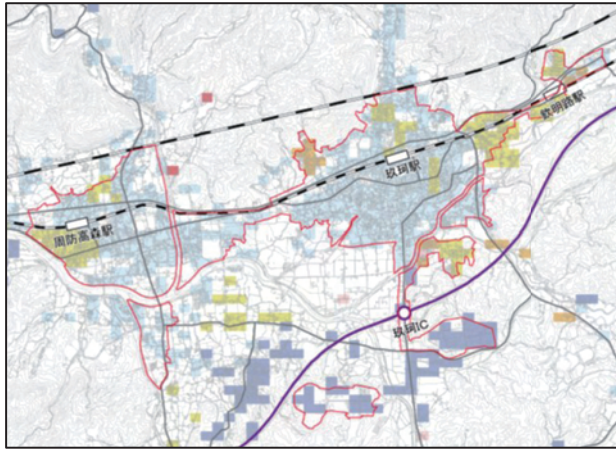


※実績値：総人口は年齢不詳を含んでいる。

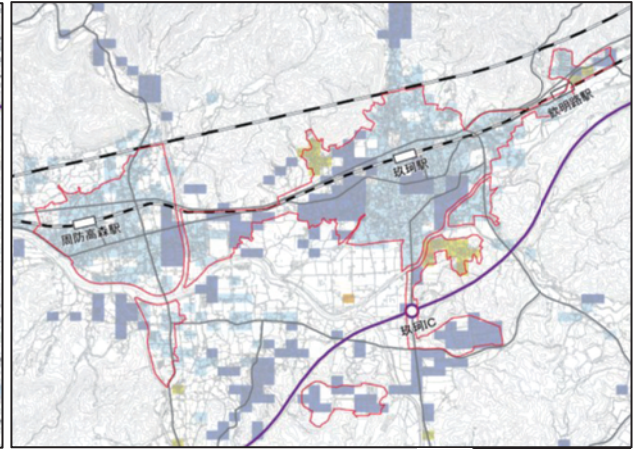
推計値：2020（令和 2）年国勢調査を基にした推計値。

出典：国勢調査、社人研「日本の地域別将来推計人口〔2023（令和 5）年推計〕」

■ 2020（令和2）年人口密度



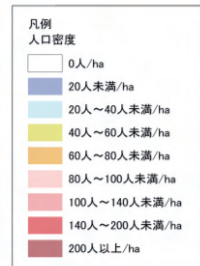
■ 2045（令和27）年人口密度



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口
〔2023（令和5）年推計〕」

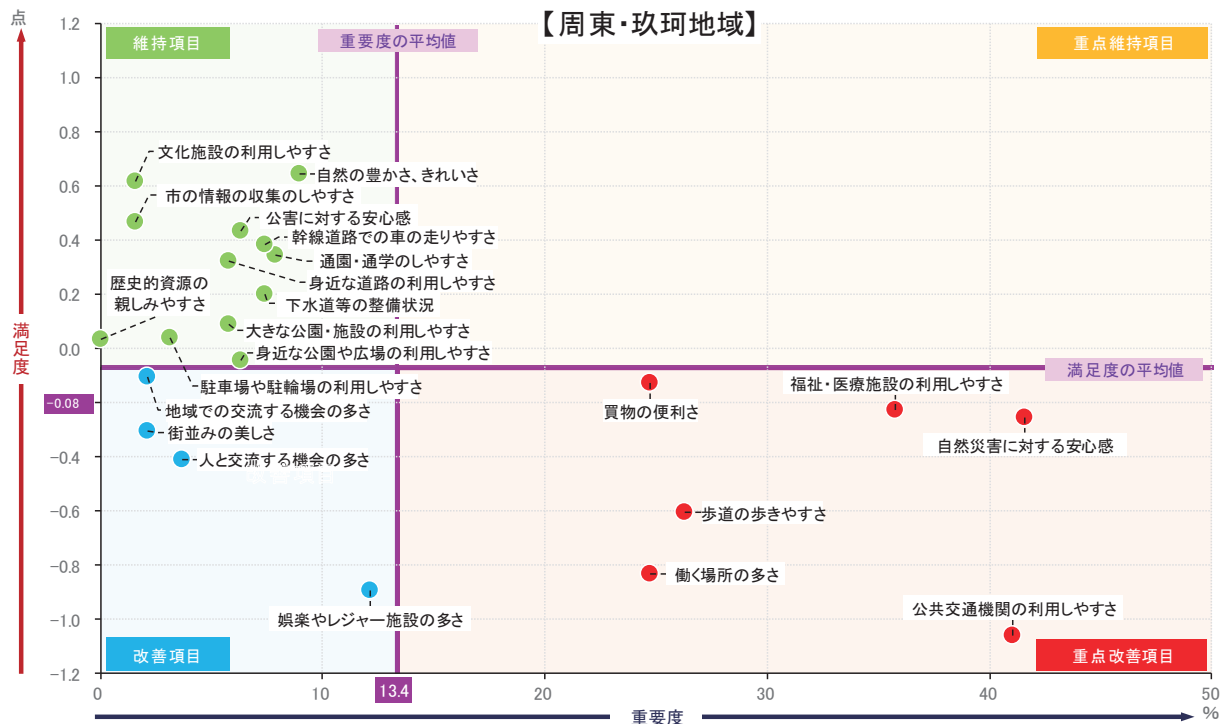
国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」

※国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツールV3（R2 国調対応版）」
を用いた計算結果を加工して作成



③アンケート結果（満足度・重要度）

■ 市民アンケート 満足度・重要度



満足度・重要度の算出方法

- ・ 満足度：「満足」＋2点、「やや満足」＋1点、「やや不満」－1点、「不満」－2点、「わからない」0点で点数化し、その平均点を算出
- ・ 重要度：各項目の回答数を居住地の居住地の回答数で割って割合を算出

【満足度・重要度からみた維持や改善すべき項目】

- ・満足度・重要度とも高い「重点維持項目」に該当するものは見られません。
- ・「自然の豊かさ、きれいさ」「文化施設の利用しやすさ」は、満足度が高い一方で、重要度は平均値を下回っており、現状の維持が望まれます。
- ・「働く場所の多さ」「歩道の歩きやすさ」は、満足度が低く、重要度は平均値を上回っており、重点的な改善が望まれます。
- ・「娯楽やレジャー施設の多さ」は満足度が低く、重要度は平均値を下回っており、優先度を踏まえつつ段階的な改善が望まれます。
- ・「公共交通機関の利用しやすさ」は、満足度が最も低く、重要度は特に高いため、重点的な改善が望まれます。
- ・「自然災害に対する安心感」は、満足度が平均値を下回っており、重要度が最も高いため、重点的な改善が望まれます。

④地域別ワークショップでの意見

- ・若者が集まるための「にぎわいの場」や「働く場」と、高齢者が暮らしやすい「徒歩圏内の医療・買い物など日常生活の利便性」を求める意見が多くありました。
- ・拠点整備では、玖珂駅や周防高森駅の駅前の活性化（住宅地や駅前ビルの整備）を望む意見が多くありました。
- ・公共交通では、岩徳線の維持と利便性向上を望む意見が多く、ライトレール化などの意見もありました。また、高齢者の移動手段としてバスやタクシーの充実を望む意見が多くありました。
- ・道路整備では、岩国西バイパス整備や既存道路の機能拡充、老朽化の更新整備を望む意見が多く、高齢者でも歩いて移動しやすい歩道の整備を望む意見がありました。
- ・観光・レジャーでは、古民家や高森天満宮などの歴史資源・景観や、田園や湖などの豊かな自然資源・景観を活かすことを望む意見が多くありました。その一方で、無理に観光施設を作ろうとせず、今の魅力を維持することを望む意見もありました。
- ・若者などの移住・定住の推進を図る上で、土地が安価な地域であることを魅力とすることができる一方、上下水道の整備が必要であるとの意見が多くありました。
- ・周東地域と玖珂地域それぞれが有する機能やイベント（朝市）の重複を解消し、一体化を図り、効率化を進めるべきとの意見がありました。

◆ 地域づくりの方針

①土地利用・市街地整備

- 総合センター日向（周東総合支所）や総合センター奏（玖珂支所）を拠点として、周辺に広がる周東・玖珂地域の中心市街地において、地域生活を支える商業・業務機能や保健・医療・福祉等の多様な機能を集積するとともに、地域住民の憩いと交流を促進し、地域拠点としての機能の維持・強化と地域活力の創出を図ります。
- 玖珂駅前や周防高森駅前では、風情あるまちなみを活かした魅力ある商業地を形成し、地域のにぎわいの創出を図ります。
- 瀬田工業団地やテクノポート周東では、広域交通利便を活かした内陸産業拠点として、産業・流通業務施設の誘導・集積を図ります。
- 『岩国市立地適正化計画』で定めたにぎわい居住区域（居住誘導区域）については、生活道路や公園等の日常的な生活基盤施設の整備・改善を進めるとともに、安心して快適に暮らし続けることができる住環境の保全・形成を図ります。
- 島田川沿いや笹見川沿い等に広がる田園地域では、無秩序な開発を抑制し、優良な農地の保全による営農環境を適切に維持するとともに、既存集落の居住環境の改善等による集落の活力維持を図ります。



内陸産業拠点



周防高森駅

②道路・交通環境

- 周東・玖珂地域と岩国地域を結ぶ幹線道路である国道2号の改良・整備を進め、円滑な道路環境の形成を目指します。
- 周東・玖珂地域と岩国地域を結ぶ幹線道路である県道岩国玖珂線（欽明路道路）の慢性的な渋滞の解消や防災安全対策の推進に向け、道路環境の改良・整備を促進するとともに、岩国地域との連携を強化する主要な幹線道路として、岩国西バイパスの整備に向けた取組を促進します。
- 生活利便性を向上させるため、地域幹線道路や地区幹線道路の整備を推進します。
- 生活道路のバリアフリー化等を進め、歩行者や自転車が安心して通行できる道路環境の改善を図ります。

- 家屋が密集する地区においては、せまいみち改善事業等を活用し、生活道路の拡幅による居住環境の改善や地域の防災機能の強化を図ります。
- 岩徳線は、沿線住民の生活路線の確保や地域振興を図るため、県や沿線自治体、JRと連携し、各種イベントの企画等を行い、利用促進を図ります。
- 玖珂駅、周防高森駅等では、駅前広場等の整備により、交通結節機能の強化及び利便性の向上を図ります。

③自然環境・都市環境

- 玖珂総合公園では、多くの市民に利用される広域的なスポーツ・レクリエーション拠点として、機能充実を図るとともに、施設の適正な維持・管理を行います。
- 街区公園等の地域に身近な公園や緑地では、住民のニーズを踏まえながら再編・再生や適正な維持管理、活用方策について検討し、地域と協働した取組を進めます。
- 周東町文化の里等の広場や緑地は、地域に身近なレクリエーションの場として適切に維持・管理するとともに、地域と協働しながら有効活用を図ります。
- 中山湖周辺では、水と緑からなる美しい自然環境を保全するとともに、ダム湖を活かした自然体験型のレクリエーション空間として保全と活用を図ります。
- 島田川や東川、笹見川等の自然環境の保全を図るとともに、河川敷等では、防災面に配慮しながら川の自然に親しめる空間の整備を促進し、川と市街地や集落が調和した美しい田園景観の保全・形成を図ります。
- 緑豊かな高照寺山の自然環境を保全するとともに、パラグライダー基地等として活用されている山頂へのアクセス性の向上に努め、自然を楽しめる場としての活用を図ります。
- 市街地周辺の山地・丘陵地は、林業基盤の維持・活用及び山林の適切な維持・管理により、貴重な自然環境の保全に努めます。また、市街地の潤いに資する貴重な緑として、市民や企業等と連携しながら適切に保全を図ります。
- 周東町下久原の一部地区においては、簡易水道整備事業を推進します。
- 河川等の自然環境への負荷を軽減させるとともに、衛生的で快適な生活環境を整えるため、公共下水道等の整備を推進します。また、公共下水道事業区域外については、合併処理浄化槽の普及に向けた取組を推進し、汚水処理人口普及率の向上に努めます。



玖珂総合公園



中山湖

④都市防災

- 島田川沿いに広がる市街地や集落等では、洪水浸水が想定されていることから、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、護岸整備や河川のしゅんせつ等による自然災害対策の強化に努めます。
- 河川氾濫を抑止・軽減するため、島田川水系流域治水プロジェクトに基づき、山口県と連携を図りながら、砂防堰堤等の整備や治山対策を促進します。
- 土砂崩壊や土砂流出等のおそれがある地区等では、ハザードマップ等の防災情報の整備と周知を図るとともに、被害防止のための対策の推進、開発の抑制等による自然災害対策の強化に努めます。



岩国地区消防組合 西分署

⑤その他

- 地域の歴史・文化的資源や豊かな自然環境により育まれた農業・畜産業等を維持・保全するとともに、地域との協働による地域の特色を活かした交流を促進し、活力の創出を図ります。

◆ 周東・玖珂地域の方針図

